

# 指導の手引

教材の使用にあたっては、「指導の手引」を示しておりますので、指導の一例として参考にしてください。この指導事例を参考にして、学級の実態に応じて御利用ください。

## 指導の手引の見方

### ◆主題設定の理由

- (1) ねらいや指導内容についての教師の考え方
- (2) (1) と関連する児童の実態と教師の願い
- (3) 使用する資料の特質や取り上げた意図及び児童の実態とかかわらせた指導の方策

### ◆学習指導過程

学 習 問 題

- 中心発問      ○ 基本発問

### ◆他の教育活動などとの関連

- ・ 特に関連のある教育活動や体験活動、日常生活との関連、事前の指導や事後の指導の工夫など
- ・ 家庭や地域社会との連携、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導、保護者や地域の人々の参加や協力などの工夫

# 主 題 名 ものに感謝し大切にしようとする心

## 1 資料名 わたしたちのせいかつ

### 2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、1-(1)「節度ある生活習慣」である。学習指導要領では、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」と示されている。今日、ものが豊富にあるために、ものをなくしたり壊したりしてもすぐに次のものが手に入るという意識が強い。物質的な豊かさの中で生活している児童に、ものの値打ちを知らせ、ものを大切にしようとする態度を育てていく。本主題では、今までのものの扱い方を振り返り、まごころをもってものを大切に、最後まできちんと使おうとする態度を育てることをねらい、「善悪の判断・勇気」、「生命尊重」の価値と関連させて指導していきたい。

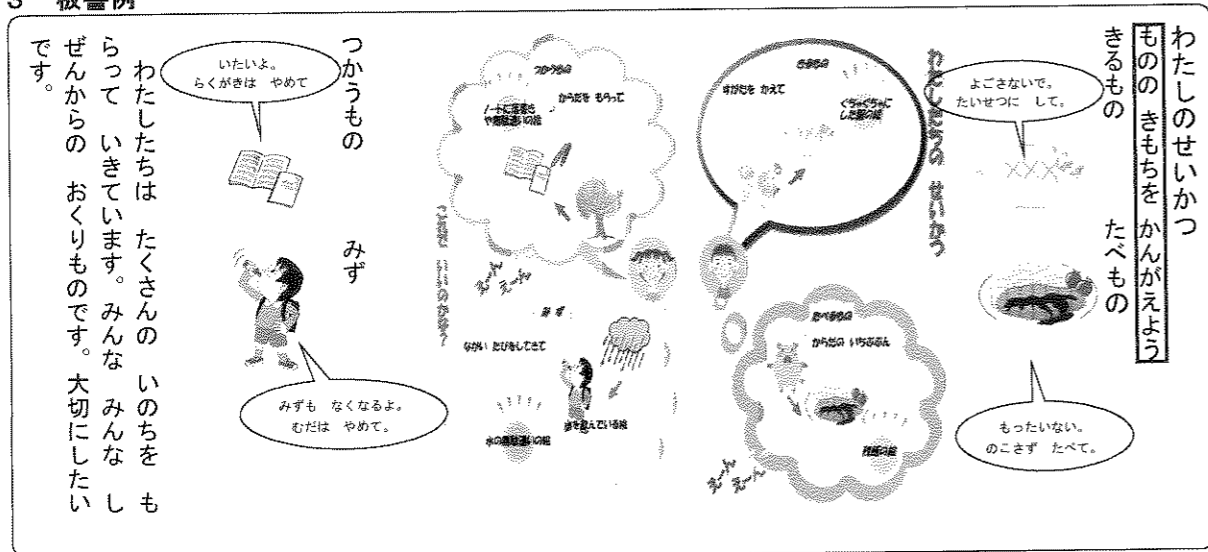
中心価値	関連価値
1-(1)節度ある生活習慣	1-(3)善悪の判断・勇気 3-(2)自然愛、動植物愛護 3-(1)生命尊重

(2) 本校の教育目標は、「豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きる児童の育成」である。また、道徳の重点目標の一つに「自ら考える力を持ち、目標に向かってやり遂げる子の育成」を挙げている。これを受けて、第1学年の目標の一つに、「身の回りを整え、自分のものやみんなで使うものを大切に使う。」がある。

本学級の児童は、明るく素直で、休み時間には時間がくるのを待ちかねて元気に運動場で遊ぶ活動的な子どもが多い。年度当初は、上手に友達と関わることができず一人遊びを楽しむ子どもが多かったが、学校生活に慣れるにつれ、友達とも積極的に関わる児童が増えてきた。しかし、この時期の児童は、自己主張しすぎてトラブルが起こったり決まりを守らず周囲に迷惑をかけたりと節度に欠ける面も多分にある。悪気はなくても、ものを粗末にしたり友達のことを考えずに行動したりということもしばしばある。反面、自分のことは自分でしなければならぬとか、良いことと悪いことを判断し、良いことをしようとするなどの道徳性も芽生えてきている頃でもある。そこで、この主題を通して、日頃の生活を振り返り、ものを大切に扱い、工夫して使おうとする道徳的実践意欲と態度を養いたい。

(3) 本資料は、入学間もない児童でも理解することが出来るように、文字を少なく、その場面のイメージが浮かぶような絵を描いて、子どもたちに自分を振り返らせる場を設けることとする。例えば、「着るもの」であれば、中心から最も離れているぐしゃぐしゃにして脱いでいるセーターを見て、「みんなもこんな使い方はしていないのかな?」と問いかけ、セーターの基は何なのかを考えさせる。同様に、「食べもの」「使うもの」「水」についても、粗末に扱っている状態から、初めの段階はどうだったのかを考えさせ、自分を客観的に見つめ直させる。どうすればそれぞれのものが喜ぶのかを話し合わせることで、ものに同化しながらものの命を考えられるようにしたい。

### 3 板書例



## 4 本時の学習

### (1) ねらい

子どもたちの身近にある環境(衣・食・住に関わるもの)を見つめ直し、それぞれのものに命と限りがあることを知り、そのものに感謝して、自分の生活を見直し節制していこうとする。

### (2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 毎日の給食について振り返る。	○みんなは、給食を食べる時、どんなことを考えながら食べているのかな。 ・何でも食べるよ。 ・少しは好き嫌いをしているかな。	・給食の残滓が多い写真を提示し、自分を振り返らせる。 ・資料の拡大コピーを用意し、掲示しておく。
2 資料を見ながら本時の課題を確認する。	●この資料のセーターを見て、どんなことを思うの。羊はなんと言ってるだろう。 ・羊はきっと泣いているだろう。 <b>ものの気持ちを考えよう。</b>	・ものの気持ちが考えられるように羊や豚のペープサートを用いながら話す場を設定する。
3 資料の中心に描かれた羊、豚、木、水の気持ちについて話し合う。	○食べ残ったトンカツや、落書きだらけの机、出しっぱなしの水たちはなんと言っているだろう。 ・せっかく作ってくれた食べものを残すのはもったいないよ。 ・ノートに落書きがいっぱいだ。 ・こんな使い方をしていたら木は泣いているよ。 ・水も出しっぱなしだよ。 ・香川県はよく水不足になるらしい。 ・こんな使い方いいのかな。	・問題を見つけさせるために、中心から最も遠い方の絵に注目させる。 ・それぞれのものの置かれていた状態から、使われ方を想像することで、自分の命を提供している、ものの悲しみに共感できるようにする。 ・全員に分かりやすく楽しみながら学習させるために、教師が子ども役、児童がものの役になるロールプレイングを取り入れる。
4 自分の生活を振り返り、資料から学んだ心をハートファイルに書き込む。	○この資料だけでなく、みんなの生活を振り返ってごらん。ものが泣いていることはなかったかな。 ・僕は、ノートに落書きをよくするからノートが泣いているのかな。 ・私は、部屋の電気の付けっぱなしも多いよ。	・自分の生活を素直に見つめることができない子には、学校での様々な活動の写真や忘れられているものの写真を用意しておき、必要に応じて提示する。 ・自分たちがお世話になっているものの使い方を振り返り、本時学んだ心をハートファイルに綴らせる。
5 教師の話聞く。	・食べ物や学用品だけでなく、様々なものに命があることを知り、そのものに感謝して大切にしようね。	・身の回りのものに対する視野を広げ実践化への意欲を図る。

### (3) 評価の観点

資料を見たり、ロールプレイングをしたりすることで、自分たちがお世話になっているものの気持ちに共感し、これまでの自分の扱い方を振り返ることで、感謝しながら大切に扱おうとする気持ちをもつことができたか。

## 5 他の教育活動などとの関連

- ・ 基本的な生活習慣を確立するためには、学校生活だけでなく家庭の協力を得ながら日々の継続的な指導が重要となってくる。
- ・ 本主題は、学活の保健指導や生活科の学習と関連を図りながら、学んだ心を実践化させることが大切になってくる。必要に応じて、養護教諭や栄養教諭、給食担当教員らをゲストティーチャーに迎え、生の声を聞かせるようにしたい。

主題名 よく かんがえて

1 資料名 かえりみちの できごと

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、1-(3)「善悪の判断, 勇気」である。学習指導要領では、「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。」と示されている。人としてやってよいこと、してはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期からしっかりと身に付けていかなければならないものである。それとともに、より積極的に健康的な自己像を描くことができるようにすることが大切である。

この段階においては、まだ集団生活に慣れていないために、引っ込み思案になったりものおじしたりすることも少なくない。行ってよいこと、人間としてしてはならないことが区別できる力を養うとともに、よいと思ったことは、遠慮しないで進んで行うことができるよう、常に励まし、援助していくことが大切である。

中心価値	関連価値
1-(3)善悪の判断, 勇気	1-(1)節度ある生活習慣 4-(1)規則の尊重, 公德心

(2) この時期の児童の多くは、親や教師など、身近な大人の判断に頼って行動する傾向が見られる。日常生活の様々な場面で遭遇する出来事に対して、どう行動することがよいことなのかを学びつつある段階である。

学校では、きまりやみんなで決めた約束を守ってよりよい行動ができる子を目指して指導している。本学級の児童の多くは、きまりやみんなで決めた約束を、自分なりに守ろうと努力している。また、どのように行動することが望ましいのか、自分で判断できない場合は、教師の判断を仰ぎ、適切に行動しようとしている児童が多く見られる。しかし、中には、きまりについて、「他の子も守っていないから、守らなくてもよい」「きまりは知っているけれど、他の人に知られなかったら守らなくてもよい」といった気持ちの児童も数名見られる。

善悪の判断がまだ十分についていないこの時期、自分で判断して正しく行動できるようにするために、善悪の判断の基準をしっかりとめさせていくことが大切になってくる。

(3) 本資料は、児童の下校時に焦点を当てている。きまりを守って生活をしている学校から解放され、児童にとってはのびのびと自由に行動できる帰り道の場面である。児童の多くは、昆虫や小動物に大きな関心をもっている。帰り道には、児童の興味関心の高い「生き物」がたくさんいるため、時間を忘れてふれあう子も少なくない。

たぬきがきつねとりすと一緒に学校から帰っていると、途中できつねが疲れて座り込んでしまう。そこに通りかかったおおかみが、くわがたがたくさんいるくぬぎの木を教えてくれる。くぬぎの木にのぼってくわがたをつかまえようとするきつねとりすを見て、寄り道をしないでまっすぐに家に帰ろうと説得しようとするたぬきのこころの中から「善悪の判断, 勇気」を考慮することができると考える。

また、正しいことを勇気をもって行動することによって、まわりのみんなも楽しく安心して過ごせることになり、自分もよくなっていくことに着目させ、1-(1)「節度ある生活習慣」や4-(1)規則の尊重, 公德心と関連させて指導していきたい。

3 板書例

正しいことをゆうきをもってする心

かえりみちの できごと

・きつねさん、ここで休んでしまったら、家に着くのが遅くなってしまふよ。  
・帰りが遅くなったら、家の人にも心配するよ。

・二人とも楽しそうだな！  
だめだよって、言いにくいなあ。  
・少しくらい寄り道してもいいかなあ。  
・やっぱり寄り道はいけないよ。それ以上登ると、危ないよ。

・かたづけなさいよ。あと、つぎにいつか人がこまるよ。

こんなとき どうしたらいいのかな？

④通学路の異なる友達に、「一緒に帰ろう」と誘われている絵

⑤休み時間に遊んだ後、一輪車を片付けないで教室へ帰っている絵

④違う通学路を帰るのはいけない。危ないとこがわからないし、家の人も心配するよ。

⑤使った後は、きちんともとの場所に片付けなさいよ。次を使う人が使いにくいよ。

4 本時の学習

(1) ねらい

迷っているためきの気持ちを吹き出しに書くことを通して、なぜよいのか、悪いのかを考えて、自分で判断することができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 生活場面の絵を見て、話し合う。	○こんなことについて思ったことはありませんか。 ④通学路の異なる友達に、「一緒に帰ろう」と誘われている絵 ⑤休み時間に遊んだ後、一輪車を片付けないで教室へ帰っている絵	・絵を見て、自由に自分の思いを話し合うようにする。 ・状況が理解できるように、三つの場面絵を提示しながら、資料を読んでいく。 ●たぬきは、どんなことを考えて、「だめだよ」といったのだろうか。
2 友達を説得しようとするたぬきの気持ちを考える。 (1) きつねが石の上にかばんをおろして、座り込んでしまった場面	こんなとき どうしたらいいのかな？ ・きつねさん、ここで休んでしまったら、家に着くのが遅くなってしまふよ。 ・帰りが遅くなったら、家で待っているきつねさんのお母さんだって、とても心配するよ。 ・早く家に帰って、お母さんに顔を見せてからゆっくり休むといいのになあ…	・きつねが石の上に座り込んでしまったときの、たぬきの気持ちを、吹き出しに書くよう指示する。 ・善悪の判断について、個々の価値意識が明確になるように、ハートに色をぬってから、たぬきの気持ちを吹き出しに書くように指示する。 ・たぬきの迷いがつかめるように板書する。
(2) くわがたをとるために、きつねとりすがくぬぎの木に登った場面		・たぬきの迷いがつかめるように板書する。 ・たぬき、きつね、りす、おおかみの気持ちに迫らせるため、それぞれの立場になって役割表現をするようにする。 ・児童の多様な反応を引き出すため、教師も役割表現に参加する。 ・迷った後のたぬきの気持ちはどうなったのか、ハートに色をぬり、(2)の場面のハートと比べることにより、正しく善悪の判断をすることの気持ちよさを感じ取らせ、判断の高まりを見る。
(3) 四ひきがならんで帰っている場面	・「やっぱりだめだよ」って言ってよかったな。みんなもわかってくれてうれしいな。 ・これでみんな早く、無事に帰れるよ。 ・おうちの人も安心するだろうな。	・迷った後のたぬきの気持ちはどうなったのか、ハートに色をぬり、(2)の場面のハートと比べることにより、正しく善悪の判断をすることの気持ちよさを感じ取らせ、判断の高まりを見る。 ・色が変わった訳を尋ねることで、判断の基準となる言葉を明確にする。
3 導入で提示した生活場面について考える。	④違う通学路を帰るのはいけない。危ないとこがわからないし、家の人も心配するよ。 ⑤使った後は、きちんともとの場所に片付けなさいよ。次を使う人が使いにくいよ。	・初めの場面にもどり、それぞれの場面で、どう言ってあげたらいいのかを吹き出しに書くことで、日常生活において善悪を判断する力を高める。

(3) 評価の観点

たぬきの心の変容から、善悪の判断をするための言葉を見付けることができ、よくない行動をしているとき、善悪を判断して、どう言ってあげたらいいのか自分の考えを書くことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

事後指導として、日記、朝の会、帰りの会などで、正しいか間違っているかを判断している姿や、判断し勇気を出して声をかけている態度を賞賛していく。注意された児童に対しても、素直に誤りを認める姿や、行動に気を付けようとする課程を賞賛しあい、みんなでよりよく成長していこうとする温かい雰囲気をつくっていくことを大切にする。

主題名 しぜんと ともだち

1 資料名 空をとべた アオイトトンボ

2 主題設定の理由

(1) 本主題でねらう中心価値は、3- (2) 「自然愛、動植物愛護」である。学習指導要領では、「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。」と示されている。動植物は自然環境の中で生きており、それぞれの環境に適応して生活を営んでいる。人間もまた、環境とのかかわりを抜きにしては生きていけない存在である。地球全体の環境の悪化が懸念されている現在、多くの生物が絶滅の危機にさらされている。自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度を身に付け、身近な生き物とともに生きていこうとする気持ちをもつことは、低学年の児童にとっても大切なことであると考えられる。

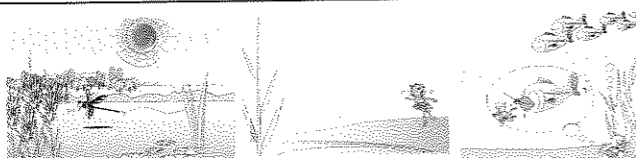
中心価値	関連価値
3-(2) 自然愛、動植物愛護	3-(1) 生命尊重 2-(2) 勤勉・努力

(2) 低学年の時期は、動植物に対する関心が強く、昆虫や水中生物を好む児童も多い。2年生の生活科では、夏に水中の生物を捕まえたり生き物ランドを作ったりもする。しかしながら、捕まえてきてもうっかり殺してしまったり、生き物が遊びの対象になり、それらが懸命に生きてきたことには気づきにくかったりする。まして、周辺の環境に目を向ける児童はほとんどいない。動植物との触れ合いの機会が多いこの時期にこそ、本資料を通して、自然の中で懸命に生きる生き物の姿に触れ、それらを守ろうとする気持ちや周辺の環境を大切に、自分たちができることをしようとする態度を育てることは大切であると考えられる。

(3) 本資料は、絶滅危惧種として指定されているコバネアオイトトンボを扱った資料である。現在コバネアオイトトンボは、県内においても数か所ではか息せず、数も減少している。そして、住むところを失い、絶滅の危機に扮している。その理由は、羽化に必要なアシの伐採、ブラックバスの増殖、越夏のための林の減少などがあげられる。人々の不用意な環境破壊により、貴重な生き物が姿を消しつつあるのである。資料の中で小さなヤゴが何とかトンボになり空を飛ぶまでの苦労を読み取ること、厳しくても生き抜いている自然界の生き物のすばらしさやそれらの生き物や環境を大切にすることの重要性に気づき、大好きな生き物を守ろうとする気持ちをもってほしい。また、アオイトトンボのアオちゃんの視線からストーリーを読み進めることで、低学年の児童にも無理なく登場人物の心情に迫ることができるように考える。

指導に当たっては、3つの大きな困難（敵である魚から逃げる場面、羽化するためのアシをさがす場面、成虫になってからの隠れ場所を探す場面）をとりあげる。それぞれの場面でのアオちゃんの気持ちに焦点を当て、困難を乗り越えて無事に仲間を見つける姿に共感できるようにする。そして、環境破壊が生き物を住みにくくしていることにも思いを巡らせたい。さらに、終盤において、懸命に生きているアオちゃんを応援するためにどんなことが大切なのかを身近な生活の中から探る活動を取り入れ、環境や動植物を大切にしようとする心情を育みたい。

3 板書例



すみががなくなっている  
気づいたこと

- ・ 小さな生きものでも がんばって生きていた。大切にしたい。
- ・ すむば所をなくさないようにしたい。

大きな魚

- ・ こわいよ、たすけて。
- ・ 食べられてしまいたい。
- ・ みんなは どこにいったんだろ。

アシがない

- ・ こまったな。どこにあるのかな。
- ・ 見つからないと トンボになれないよ。
- ・ あきらめずにさがしてみよう。

そらをとべた アオちゃん

アオちゃんたちをおうえんするために大切な心を見つけてよう。

たいへんだったこと と そのときの気持ち

4 本時の学習

(1) ねらい

アオイトトンボが成虫になるまでの苦労やそのときの気持ちを想像し、環境の悪化が原因であることに視点を向けることで、生き物や環境を大切にしようとする態度を養う。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 昆虫や小動物の好きなどころを話し合う。	○昆虫や小さな生き物はどこが好きですか。 ・とてもかわいい。 ・えさをやったりして楽しい。	・好きな生き物や昆虫の話聞き合、動植物への温かい気持ちを共有して学習に入れるようにする。
2 資料を読み、アオイトトンボが飛び立つまでの苦労を読み取る。	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">アオちゃんが苦労した様子から、アオちゃんたちを応援するために大切な心を見つけよう。</p> <p>○アオちゃんがトンボになるためにどんな大変なことがありましたか。 ・魚に食べられそうになった。 ・アシの草がすぐに見つからなかった。 ・かくれる林がすぐに見つからなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読む中で、学習に必要な情報（アオイトトンボのこと、アシの草の役割）を提供し、内容理解の手助けとする。</li> <li>・3つの困難を確認することで、話の焦点を絞る。</li> </ul>
3 それぞれの場面での気持ちを考える。	○それぞれの場面アオちゃんはどんな気持ちだったでしょう。	・ワークシートにアオちゃんの気持ちを書いた後、全体で場面ごとにアオちゃんの気持ちを考えていくようにする。
(1) 魚から逃げる場面	・こわいよ。食べられてしまう。みんなはどこに行ったんだろう。	・最後まであきらめずがんばったことを取り上げ、厳しい環境の中でも精一杯生きているトンボたちのすばらしさに気付けるようにする。
(2) アシの草をさがしている場面	・どうしてアシの草がないんだ。これじゃあ成虫になれないじゃないか。やったあ、あきらめずにさがしてよかった。	
(3) 林をさがして飛んでいる場面	・あついよ。早く林を見つけたいといけない。林はどこだ。	
4 アオちゃんが苦労をした原因について、話し合う。	●どうしてアオちゃんはあんなに苦労をしたのだろう。 ・アオイトトンボに大切な林やアシの草がなかった理由 ・外来種の魚がたくさんいる理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魚好きな児童や、生き物好きな児童の意見を取りあげたり、補助資料を利用したりして、人間が環境破壊をしているために、自然の生き物の生活が脅かされていることに気付けるようにする。</li> <li>・自分の生活の中で、できることを考え、実践への意欲づけとする。</li> </ul>
5 この話から気付いたことや自分ができることを考える。	○この話を聞いて分かったことやこれから自分が気をつけたいことを考えてみよう。	
	<p>小さな生き物でもいっしょうけんめいに生きていた。だから、その命や住みかを大切に守っていきたい。</p>	

(3) 評価の観点

アオイトトンボのアオちゃんが厳しい環境の中でもがんばって成虫になったことに気づき、これからの自分の生活の中で、動植物や回りの環境を大切にしようとする気持ちをもつことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

- ・ 事前・事後に、生活科で生き物ランドを開いた時に、世話に気をつけたり学習が終わった後の扱いに気をつけたりして生き物を大事にしようとする気持ちを育てていく。
- ・ 地域に住む方々の中で、自然や環境を守っている人にゲストティーチャーとして来ていただくことも学習効果をあげる上で有効である。

主 題 名 節度ある心

1 資 料 名 ならずのかね

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、1-(1)「節度ある生活習慣」である。学習指導要領では、「健康や安全に気を付け、ものや金銭を大切に、身の回りを整え、わがまをしないで、規則正しい生活をする。」と示されている。基本的な生活習慣を身に付けることは、人間が人間らしく生きていく上できわめて重要である。今日、ものが豊富にあるために、ものをなくしたり壊したりしてもすぐに次のものが手に入るという意識が強い。物質的な豊かさの中で生活している児童に、当たり前のように手に入っているのは、自分を取り巻く周囲の人の努力のおかげで成り立っており、自分たちもわがまをしないで節度ある生活をしようとする態度を育てていきたい。本主題では、努力せず楽をして生きていくのではなく、正直に誠実に生きることのすばらしさや勤労意欲を持って働くことの大切さを「勤勉・努力」、「善悪の判断・勇気」、「正直・誠実、明朗」の価値と関連させて考えさせたい。

中心価値	関連価値
1-(1)節度ある生活習慣	1-(2)勤勉・努力 1-(3)善悪の判断・勇気 1-(4)正直・誠実、明朗

(2) 本校では、目指す子ども像に「進んでできる子」「考える子」「がんばる子」を掲げている。また「常に自分の行動を反省し、より高い目標に向かって粘り強くやり抜く子どもを育てる」ことを道徳教育重点目標の一つとしている。

本学級の児童は、明るく素直で、休み時間には時間がくるのを待ちかねて元気に運動場で遊ぶ活動的な子どもが多い。勤労意欲も旺盛で進んで手伝いをしたり意欲的に係り活動したりする姿も見られる。しかしながら、努力を要する場面でも、できることなら楽をして遊んでいたという姿や自分のやりたくないことは人に押しつけようとするわがままな姿も見られる。悪気はなくても、ものを粗末にしたり友達のことを考えずに行動したりということもしばしばある。反面、自分のことは自分でしなければならぬとか、良いことと悪いことを判断し、良いことをしようとするなどの道徳心も芽生えてきている。そこで、この主題を通して、日頃の生活を振り返り、金銭やものを大切に扱い、わがまをしないで節度ある生活をしていこうとする道徳的実践意欲と態度を養いたい。

(3) 本資料は、丸亀市の牛島に伝わるもので、努力しないで富を得たとしても、結局そうした幸せは、何かのきっかけで失ってしまい、虚無感だけが残るので誠実に生きなさいという話である。

ござえもんは心と態度の変容を心情曲線を提示しながら捉えさせ、「自分たちはいつも楽しようとしていないのかな?」と問いかけ、係の仕事や人に押しつけたり自分のことを自分でしないで人に手伝ってもらったりする場面を想起させる。どのように生活すればよいのかを話合わせることで、よりよい生活を考えられるようにしたい。

3 板書例

ならずのかね  
しようじきのころをかんがえよう

うしじま(まるがめし)  
まるお(ござえもん)  
ござえもんは どんな きもちで  
かねのまえで たちつくして  
いたのだから

かねをつくるとき  
くらしを らしくしたい  
かねもちになりたい  
しあわせに なりたい  
ゆうきを だして かねを  
つこう

さかなが たくさんとれる  
おのがねもち  
せとうちの ふなもち

わたがまを くらし  
はたらかない  
ものやひとを たいせつに しない  
にほんじゅうのうみからふねをあつめた  
まいごちまいにち せいたくなくらし

おあらし ふねが しずむ  
なんではなことをしたんだ  
いちどにあつめるのはたかかった  
まじめにはたらけばよかった  
じぶんは どうかな  
がんばっている。

ときどき わがまを する。  
いやなことを おしつけたことがある。

4 本時の学習

(1) ねらい

我慢をすることの大切さに気付き、自分の生活を振り返って、わがまをしないで節度ある生活をしようとする意欲や態度を育てる。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 毎日の生活について振り返る。	○わがまをしないで、がんばっていることは、ありますか。 ・好き嫌がなく何でも食べるよ。 ・掃除を一生懸命がんばっているよ。	・振り返りを容易にするために、あらかじめ子どもの日記などを用意しておく。 ・資料の拡大コピーを用意し、掲示しておく。
2 資料を読んで、本時の課題を確認する。	ござえもんは、どんな気持ちで「ならずの鐘」の前で立ちすくんでいたのだろう	・ござえもんの行動や気持ちを場面ごとに読み取らせていく。思考が困難な場合は、鐘の絵の前で劇化させる。
3 ござえもんの行動や気持ちの変化について話し合う。 ・鐘をつく時 ・贅沢な暮らしをしている時 ・立ち尽くしている時	○ござえもんは、どんな気持ちで鐘をついたのでしょうか。 ・鐘をつこうかどうか迷っていたよ。 ・楽な暮らしがしたかったんだ。 ○願いが叶ったござえもんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・大金持ちになってうれしい。 ・今までの暮らしがうそみたい。 ・贅沢な暮らしばかりでいいのかな。 ●ござえもんは、どんな気持ちで立ちすくんでいたのでしょうか。 ・贅沢ばかりしていたからだよ。 ・きっとわがまばかりだったんだ。	・もしも自分がござえもんだったらと問いかけ、ござえもんに同化させて素直な反応を引き出す。 ・心情曲線を提示することで、初めと今の心と行動の変化を捉えさせさらにれ方を想像することで、最後に不幸になった理由を考えさせる。 ・気持ちが想像できない児童にはござえもんは幸せになれたのかそうではなかったのかを捉えさせる。
4 自分の生活を振り返り、資料から学んだ心をハートファイルに書き込む。	○今日の勉強で学んだ事をハートファイルに書きましょう。 ・僕は、時々嫌なことを友達に押しつけているよ。 ・私は、調子に乗ってわがまをすることがあるよ。	・自分の生活を素直に見つめることができない子には、学校での様々な活動の写真を用意しておき、必要に応じて提示する。 ・自分たちの生活を向上させるために自分ができそうなことを語らせ、本時学んだ心をハートファイルに綴らせる。
5 教師の話聞く。	・誰だって幸せに暮らしたいよね。 ・幸せと楽を言うことは、決して全部同じではないんだ。	・教師だって、時々楽な方に気持ちが動くけど、努力して嬉しかった話をし、めあてに向けての実践化の意欲を図る。

(3) 評価の観点

主人公の気持ちを考えたり、心情曲線を見直したりすることで、わがままな主人公の愚かさに気付き、これまでの自分の行動を振り返ることで、わがまをしないで節度ある生活をしていこうとする気持ちをもつことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

- ・ 基本的な生活習慣を確立するためには、学校生活だけでなく家庭の協力を得ながら日々の継続的な指導が重要となってくる。
- ・ 老人会との昔遊びなどの交流会で昔の生活に関する話を聞く。



主 題 名 なかよく しよう

1 資 料 名 いいの山と青の山

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、2-(3)「信頼、友情」である。学習指導要領では、「友達と仲よくし、助け合う」と示されている。よい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情をはぐくんでいくことが大切である。  
この時期は、まだ幼児期の自己中心性が残り、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることは難しいことも多い。しかし、学級の生活を共にしながら仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ね、友達のよさをより強く感じるようになる。このことを踏まえ、特に身近にいる友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さを実感できるようにしたい。そこで、2-(2)「思いやり、親切」、2-(4)「尊敬・感謝」の価値とも関連させながら、本主題に迫りたい。

中心価値	関連価値
2-(3)信頼・友情	2-(2)思いやり、親切 2-(4)尊敬・感謝

(2) 本校の目指す児童像の一つの柱が「相手を思い、仲よくできる子」である。それを受けて、本校では、「やさしい言葉でみんななかよし」を合い言葉に、みんなが楽しいと思える学級づくりに取り組んでいる。  
この時期の児童の多くは、まだ自己中心的で、相手の気持ちを考えながら助け合うことは難しい。本学級の児童の多くは、がんばっている友達を見つれたり、友達のよさを認めたりして、気持ちよく称賛の拍手を送ることができる。また、友達に対して自分なりにやさしく接したい、困っている友達がいると助けたいと思い、実際に行動しようと努力している。しかし、相手の気持ちをよく考え、相手がどのようなことを望んでいるのかを十分に配慮しながら行動できる子はまだ少ない。

そこで、本主題を通して、互いのよさを認め合い、相手の気持ちを考えて温かい心で接することが、相手だけでなく、自分の喜びにもなり、とても心地のよいものであることに気付かせたい。

(3) 本資料は、昔から語り継がれている香川の伝説「飯野山と青野山」を出典としている。児童の日常の中で起こりやすい出来事を取り上げているので、自分の生活に戻して考えやすい資料である。

飯野山と青の山はなかのよい友達であったが、ある日、飯野山が青野山の気持ちを傷つける言葉を投げかけてしまう。青野山も負けずに言い返したところから、つかみ合いのけんかに発展し、とうとう飯野山は青野山の頭を切り取ってしまう。

指導にあたっては、場面の状況を絵話にすることで、話の内容がよく分かるようにする。けんかをしている場面で、飯野山か青野山のどちらかを選択して、それぞれの気持ちを考える。会話をもとに、二人の気持ちをふくらませ役割表現をしていくことで、言葉によって、相手の気持ちを深く傷つけてしまうことや、自分の気持ちを抑えられないくらい腹が立って、相手に暴力をふるってしまうことにもなることを共感できるようにする。

また、終末部分では、相手の気持ちをお互いにわかりあうことの大切さについて深めた考えを、飯野山、青野山それぞれに宛てて手紙に書く活動を設定する。これまでの自分の生活とつなぎ、2-(2)思いやり、親切 2-(4)尊敬・感謝と関連させて、互いに認め合い、仲よくすることの大切さを指導していきたい。

3 板書例

いいの山と青の山

いいの山と青の山が、もとのようになれたわけをかんがえよう。

おい、おれは、おまえより強いんだぞ。おれの方が堂々としているだろう。おまえなんか、ぜんぜんきれいじゃないや。

ぼくの方がもっと強いんだぞ。ぼくの方が木がたくさんはえて、あおあおとしているだろう。おまえなんかより、ずっときれいなんだぞ。

ごめんね。大事な頭を切り取ってしまった、本当にごめん。いつも仲よくしてくれていたのに、いやなこといっぱい言ってごめんね。

いや、ぼくも悪かったよ。自分の自慢ばかりして、ごめんね。ぼくの方こそ、悪口をいっぱい言ってしまったよ。もう言わないからね。

おい、おれは、おまえよりつよいんだぞ。おれのほうが大きくて、どうどうといるだろう。

ぼくのほうは、もつとつよいんだぞ。ぼくのほうは、おまえなんかより、ずっときれいなんだぞ。

ごめんね。だいじなあたまを、きりとってしまつて、ほんとうにごめんね。

いや、ぼくも、わるかつたよ。じぶんの、じまんばかりして、ごめんね。もう、わるぐちは、いらないからね。

あやまつたら、あいても、ゆるしてくれね。ともだちのいいところを、みつきたいね。

4 本時の学習

(1) ねらい

飯野山、青野山のそれぞれの気持ちをふくらませることによって、友達どうして、互いを認め合い、仲よくしようとする心情や態度を育てる。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 絵話を聞き、学習課題をつかむ。	○こんなことについて、思ったことはありますか。 友達にいやなことを言われて、けんかになったことがあるよ。	・場面の状況がつかみやすいように、絵話にして読む。 ・状況が理解できるように、三つの場面絵を提示しながら、資料を読んでいく。 ●飯野山と青野山がもとのようになかよしになれたのは、どうしてだろう。
2 人物を選択し、飯野山と青野山の気持ちを考える。	飯野山と青野山が、もとのようになかよしになれたわけを考えよう。	・気持ちを考えたい山を選択し、それぞれの心の中の言葉を吹き出しに書くよう指示する。 ・信頼、友情について、個々の価値意識が明確になるように、ハートに色をぬり、相手を傷つける言葉を言ったり、傷つける行為をしたりすることで、自分も相手も悲しい気持ちになることに気付かせる。
(1) けんかをしている場面で、二者の会話文を増やし、吹き出しに書く。	飯野山 おい、おれは、おまえより強いんだぞ。おれの方が堂々としているだろう。おまえなんか、ぜんぜんきれいじゃないや。	青野山 ぼくの方がもっと強いんだぞ。ぼくの方が木がたくさんはえて、あおあおとしているだろう。おまえなんかより、ずっときれいなんだぞ。
(2) 天狗が仲裁に入り、仲直りをする場面で、それぞれの立場になって、深めた気持ちを全体交流(役割表現)する。	飯野山 ごめんね。大事な頭を切り取ってしまった、本当にごめん。いつも仲よくしてくれていたのに、いやなこといっぱい言ってごめんね。	青野山 いや、ぼくも悪かったよ。自分の自慢ばかりして、ごめんね。ぼくの方こそ、悪口をいっぱい言ってしまったよ。もう言わないからね。
3 飯野山、青野山に手紙を書いて、友達と仲よくするために心がけたいことを考える。	・お互いに、自分が悪かったことを、きちんとあやまつたから、相手もゆるしてくれて、もとのように、仲よくなれたのだね。 ・これからは、友達にいやなことを言わないで、お互いのいいところを見つけてあげるといいよ。	・仲直りをする場面の飯野山、青野山の気持ちに迫らせるため、それぞれの立場になって、役割表現をするようにする。 ・児童の多様な反応を引き出すため、教師は天狗の役になり、役割表現に参加する。 ・仲直りの場面でお互いを許し合い、相手のよさを認め、仲よくしようとする気持ちよさを感じ取らせ、ハートに色をぬるように指示する。 ・色が変わった訳を尋ねることで、相手のことを考えている言葉から、うれしい気持ちになることを明確にする。 ・自分が選択した山に宛てて手紙を書くことで、友達と仲よくするためには、相手のことを考え、よさを認め合おうとする心情を高める。

(3) 評価の観点

相手のことを考えた会話文を吹き出しに書くことができたか。  
交流して学んだことを取り入れて、相手のことを考え、よさを認めることで、身近な友達と仲よくしようとする気持ちを手紙に書くことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

事後指導として、児童の書いた手紙文を常時教室の背面などに「友達と仲よくするためのコツ」として掲示することで、意識が継続できるようにしたい。また、帰りの会などの「うれしかったこと」のコーナーで、友達とのかかわりでうれしかったことを発表し合うことで、実践への意欲付けを図りたい。

主題名 やさしいところで

1 資料名 あおさぎのいど

2 主題設定の理由

(1) 本主題でねらう中心価値は、3- (2) 「自然愛、動植物愛護」である。学習指導要領では、「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。」と示されている。現代社会はまさにペットブームで、ほとんどの家庭において生き物が飼われている。動物と触れ合う機会も少なくはない。しかし、その一方で鳥や犬などが心ない人間から虐待を受けるニュースも珍しくはない。同じ命をもつ生き物に対して、優しい気持ちで接し、大事に守り育てようとする姿勢は、共に地球上で過ごす我々人間にとって忘れてはならないことである。自分よりも弱い生き物を慈しみ、小さな命であっても大切にしようとする気持ちは、自分や友だちの命を大切にしようとする態度にもつながると考える。

中心価値	関連価値
3-(2) 自然愛、動植物愛護	3-(1) 生命尊重 2-(2) 思いやり、親切

(2) 低学年の児童は、動植物に対する関心が強く、生活科や当番活動として動植物にかかわる機会も多い。動植物に直接触れたり、世話をしたりすることを通して、生き物に対する優しい気持ちも芽生えてくる時期である。このような時期に、自分中心の考えで生き物を扱うのではなく、共に命をもつものとして大切にしたいという思いを育てていきたい。

(3) 本資料は、善通寺に古くから伝わる言い伝えをもとに作られた資料である。昔、よしわらの里に一羽のあおさぎが降り立ったが、その鳥はたいそうけがをしていた。哀れに思った村人たちが、心を込めて介抱したところ、そのあおさぎは元気を取り戻し飛び立っていった。そのあとに、清らかな泉が湧き出で、その泉の水は田を潤し、村人たちの目の病を治したというお話である。けがをしたあおさぎを助ける優しい村人たちの行動や村人たちへの感謝の気持ちを伝えたあおさぎの話は、読む者の心を温かにする。そして、自分も命あるものを大切に扱い、いたわりの気持ちをもって接しようとする気持ちを素直にもつことができる。さらに、この話のストーリーは、生き物に関心の強い低学年の児童にとっては親しみやすく、話の流れも明瞭であり、理解し易い。指導においては、村人の行動に焦点を当て、できる限りの看病を施し小さな命であっても何とか守り抜こうとする村人の行動の奥にある気持ちを、話の流れに沿って想像することで、中心価値に迫りたい。また、役割表現やさぎからの手紙などを通して、動植物を大切にすることのすばらしさに児童自らが気付けるようにしたい。

3 板書例

あおさぎの気持ち

村人のみなさん、ありがとうございます。みなさんのやさしいところは わすれられません。

あおさぎの気持ち

えさを食べて、元気になってほしい。

えさを食べてきて！

早くいたみをとりたい。

つめたい水でひやしたり！

はねをやさしくなでて！

くるしいだろうに。

い。

ばいきんが入ってはいけません。

きず口をきれいにあらい！

あおさぎのいど

あおさぎの かんびょうをする村人たちの 気持ちを考え、大切な心を見つけよう

村人の 気持ち

こんなに けがをしてかわいそうに。

どうにかして たすけてやりたい。

自分も命あるものを大切に扱い、いたわりの気持ちをもって接しようとする気持ちを素直にもつことができる。

4 本時の学習

(1) ねらい

けがをしているさぎを看病する村人や助けてもらったさぎの気持ちを考えることで、生き物を大切にしようとする態度を育てる。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 これまでの飼育活動や生活科での活動を思い出し、生き物に対する接し方を振り返る。	○生き物を育てたり、飼ったりしたときの気持ちを思い出そう。 ・世話をし、とてもかわいい。 ・野菜を収穫したときは嬉しかった。 ・捕まえたけど死んで悲しかった。	・生活の中でいろいろな生き物と触れ合ってきたことを思い出し、資料にも興味をもてるようにする。
2 「あおさぎのいど」を読み、さぎを助けようとする村人の気持ちを考える。 (1) けがをしているあおさぎを見た場面 (2) 看病をしている場面	一生懸命に看病をしている村人たちの気持ちを考え、大切な心を見つけよう。 ○けがをしたあおさぎを見た村人たちは、どんな気持ちだったのだろう。 ・かわいそうに。 ・どうしてこんなけがをしたんだ。 ・早く助けなくては死んでしまう。 ●どんな気持ちで村人たちは看病をしていたのだろう。 ・傷口を洗う→ばい菌が入っては大変だ。 ・羽根をやさしくなでる→痛いけど我慢するんだよ。 ・冷たい水で冷やす→少しでも楽になるといいな。 ・えさをやる→たくさん食べて元気になれよ。	・傷ついたさぎが横たわる場面の絵を示し、助けたいと思う村人の気持ちにより近づけるようにする。 ・看病をする村人の気持ちを考えやすくするために、村人が言ったことを見つけた後、それぞれの時の気持ちを考えるようにする。(ワークシート) ・ペアで役割表現を取り入れ、村人とさぎの気持ちを共感できるようにする。
3 なごり惜しそうに飛んでいくあおさぎの気持ちを考え、村人に向けての言葉を書く。 3 これからどのように動植物に接していきたいのかを自分の生活に合わせて考える。	○看病してくれた村人たちに、さぎが言いたかったことを、さぎの気持ちになって、手紙に書いてみよう。 ・みなさんありがとう。 ・おかげで元気になりました。 ・このご恩は忘れません。 ○このお話から自分の生活に役立てようと思うことを書きましよう。 ・生き物にやさしく接したい。 ・飼っているペットを大切にする。	・さぎの立場から村人への手紙を書くことで、命を助けられたさぎも喜んでいることに気付けるようにする。 ・自分の今の生活に合わせて、できることを書くように助言し、実践への意欲づけとする。

(3) 評価の観点

村人たちが、さぎの命を助けようとして一生懸命に看病した気持ちに気づき、自分の生活の中でも命ある動植物を大切にしようとする気持ちをもつことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

- ・ 事前・事後に、生活科における動物の世話や植物の栽培を行う活動と関連付け、生き物に対して優しい気持ちで接しようとする態度を育てていく。
- ・ 現在、またはこれまで飼育活動を行っている上学年の児童から、世話の仕方のアドバイスをもらって掲示したり、飼育担当の先生をゲストティーチャーと呼んだりして、生き物を大切にしている身近な人々から学べるようにすることも考えられる。

主 題 名 みまもられたいのち

1 資 料 名 うさぎのチョコ

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は「生命尊重」である。学習指導要領では、3-(1)「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること」が示されている。特に中学年の生命の捉え方に関わって「現実性をもって死を理解する」、「生命の尊さを感じ取る」段階とされる。本資料では、学校で世話をしているウサギに関わって世話をしている子どもたち、子どもたちを見守る先生方、獣医さんが、一匹のウサギの生命を救うために懸命に取り組む姿から生命の大切さを感じ取ることができる。

中心価値	関連価値
3-(1) 生命尊重	3-(2) 自然愛、動植物愛護 3-(3) けいけん 2-(4) 尊敬・感謝

(2) 本校のめざす児童像の一つに「しんせつなやさしい子」が掲げられている。この児童像に近づくためには、相手も自分も大切にできることが必要である。3年生の時のチョコの観察や飼育当番の経験から小さな生き物や動物を大切にしようとする態度は見られる。しかしながら、普段の子どもたちの生活を見ていると、何気ない言葉や暴力で相手の心を傷つけている姿が見られる。自分も相手もかけがえのない生命をもった大切な存在であることを感じることで、自分も相手も大切にできる子になれるのではないかと考える。このために、生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすることのすばらしさに気付かせるために、本主題を設定した。

(3) 手術を受けさせようとした校長先生や担当の先生方の気持ち、世話をしている4年生の気持ち、最後の最後まであきらめずに治療をする獣医さんの気持ちを人物を選んで考えさせ追究したい。どの立場から、一匹のうさぎの小さな生命を守ろうとする懸命な気持ちを感じられるであろう。この気持ちを想像することによって、一つしかない生命のかけがえのなさや大切さに気付くことができる。事前に実施した自分たちの誕生やこれまでの成長についての家族への聞き取りとつなげ、自分たちの生命も家族や関わった人たちが大切に見守ってくれて今日があることに気付かせたい。一人一人の生命がこんなにも大切なものであることを理解し、これからの生活の中で、生命を大切にしていこうと意欲を高めたい。また、最後の『チョコなりにがんばった』という獣医さんの言葉を取り上げ、最後まで生きようとしたチョコにもふれ、強い気持ちで生きようという気持ちも高めたい。

3 板書例

命は、みんな大切に命を大切にしたい。

自分たちにも事故にあつて入院したことがある。家族が心配してくれた。病気になるって看護してくれた。

動物の命を助けてほしい。手じゅつがうまくいってほしい。学校の子どもたちも心配している。

チョコだけでも助かってほしい。

子どもたちが大切に世話をしてくれた。

学校先生方


とつてもかわいい。

大切に世話をしてくれた。

元気になってほしい。

世話している4年生

うさぎのチョコを見守った人たちの気持ちを考えよう



うさぎのチョコ

4年生が世話を始めたの赤ちゃん

手じゅつ

心ぞうマッサージ

うさぎのチョコを見守った人たちの気持ちを考えよう

世話している4年生

大切に世話をしてくれた。

元気になってほしい。

とつてもかわいい。

学校先生方

子どもたちが大切に世話をしてくれた。

学校先生方

とつてもかわいい。

大切に世話をしてくれた。

元気になってほしい。

世話している4年生

うさぎのチョコを見守った人たちの気持ちを考えよう

4 本時の学習

(1) ねらい

ウサギのチョコの生命を守ろうとする人たちの気持ちを話し合うことから、生命の大切さを感じ、自他の生命を大切にしようとする意欲を高める。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	主な発問と予想される児童の心の働き	指導上の留意点や支援の観点			
1 今までの生活の中で「命」を感じたことについて話し合う。	○「いのち」を感じた経験を発表しましょう。 ・チョコが無事生まれてうれしかった。 ・妹が生まれてうれしかった。 ・おじいちゃんが死んで悲しかった。	・事前の生活アンケートや日記などから把握しておく。			
2 資料「ウサギのチョコ」を読んで話し合う。 (1) 4年生の気持ちを考える。	<b>ウサギのチョコを見守った人たちの気持ちを考えよう</b> ○4年生はどんな気持ちでウサギの世話をしているのでしょうか。 ・かわいい。大切にしたい。 ・ウサギの世話ができるのも、もう少しだ。しっかり世話をしよう。 ●チョコを見守った人たちは、どんな気持ちでしょう。	・自分の生き物を飼った体験とつなぎながら、世話をしている4年生の気持ちを想像するよう助言する。			
(2) チョコを見守った人の気持ちを考える。 ・気持ちを想像する。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>世話をしている4年生 ・元気になってほしい。 ・今まで一生懸命世話をしてきたウサギが助かってほしい。 ・うさぎが死ぬのは、いやだ。</td> <td>校長先生や担当の先生 ・ウサギの命を助けてほしい。 ・一生懸命世話をしている4年生のためにも助けてやりたい。</td> <td>じゅう医さん ・学校の子どもたちや先生方のためにもウサギの命を助けてほしい。 ・ウサギも生きようとして一生懸命に頑張っている。</td> </tr> </table> <p>・全体で話し合う。</p>	世話をしている4年生 ・元気になってほしい。 ・今まで一生懸命世話をしてきたウサギが助かってほしい。 ・うさぎが死ぬのは、いやだ。	校長先生や担当の先生 ・ウサギの命を助けてほしい。 ・一生懸命世話をしている4年生のためにも助けてやりたい。	じゅう医さん ・学校の子どもたちや先生方のためにもウサギの命を助けてほしい。 ・ウサギも生きようとして一生懸命に頑張っている。	・チョコの世話をしている4年生、子どもたちを見守る校長先生や担当の先生方、治療に当たった獣医さんの中で人物を選び、気持ちを想像させる。 ・同じ人物を選んでいもの同士で交流し、深める。 ・全体交流し、チョコに関わるだれもがチョコの命を助けようとして一生懸命だったことに気付く。
世話をしている4年生 ・元気になってほしい。 ・今まで一生懸命世話をしてきたウサギが助かってほしい。 ・うさぎが死ぬのは、いやだ。	校長先生や担当の先生 ・ウサギの命を助けてほしい。 ・一生懸命世話をしている4年生のためにも助けてやりたい。	じゅう医さん ・学校の子どもたちや先生方のためにもウサギの命を助けてほしい。 ・ウサギも生きようとして一生懸命に頑張っている。			
(3) 自分たちのこれまでを振り返る。	自分たちも事故や病気で、いろいろな人に助けられた家族に見守られたりして命がまもられてきている。  多くの人たちが一つの命を助けるために、一生懸命になっている。命は、これほど大切なものなんだ。	・自分たちも、これまでの成長の中で、けがをしたり病気になったりしていろいろな人のお世話になってきていることを話し合う。			
3 獣医さんの「チョコなりにがんばった」という言葉について話し合い、チョコへの手紙を書く。	○「チョコなりにがんばった」を聞いてどう思いますか。 ・チョコは、最後まで生きようとしてがんばったんだ。チョコは、すごいなあ。 ・自分も命を大切にしたい。	・チョコの生きようとした生への思いを感じることで、命の大切さとともに、生きようとする強い心の大切さにも気付かせ、自分たちの生き方につなげる。			

(3) 評価の観点

ウサギのチョコの命を守ろうとした人たちの気持ちを話し合うことにより、多くの人に見守られている生命の大切さについて気付くことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

- ・保健学習「育ちゆく体とわたし」や理科「動物のからだのつくりと運動」などと関連づける。
- ・事前に生活アンケートを実施し、命を感じたり、生きていることを感じたりした経験を調べておく。
- ・これまでの生活科や3年の理科「チョウをそだてよう」でどのような体験をしているか聞き取りをしておく。







主題名 やりぬく心

1 資料名 日本で最初の女性博士 —保井コノ—

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は「勤勉・努力」である。学習指導要領では、1-(2)「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」と示されている。児童が自立し、よりよく生きていくためには、何事にも粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。しかし、それは見通しもなく取り組むのではなく、よりよい自己を実現しようとする向上心と結びついてこそ、前向きな自己の生き方が自覚されてくると言える。そのためにも、児童がより高い目標や自分としての夢や希望を掲げたりして、その達成や実現への志をもち、勇気をもって取り組むことができるようにすることが重要である。特に中学年の段階では、自分がやらなければならないことだけでなく、自主性を発揮し、自分でやろうと決めたことに対しても積極的に取り組み、粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切になる。そこで、ここでは「思慮・反省」「郷土愛」と結びつけて、郷土の偉人に学び、自分の行動を振り返らせながら、粘り強くやり遂げようとする態度を育てていきたい。本資料では、「勉強したい」という願いをもったコノがそれに向かって努力するが、女性であるために何度も自分の能力を認められない場面に遭遇し、悲しみに落ち込む。しかし、その困難に何度も立ち向かい、ついに日本で初めての女性博士となる。困難に向かっていくコノの姿にやり遂げる大切さを感じると思う。


中心価値	関連価値
1-(2) 勤勉・努力	1-(1) 思慮・反省 4-(7) 郷土愛

(2) 本校のめざす児童像の一つに「やり通す元気な子」が掲げられている。本学級の子どもたちは、学期初めに自分で目標を立て努力しようと意欲を見せた。しかし、自分で立てた目標にもかかわらず、順調に進まなければあきらめてしまったり、目標を下げてしまう意志の弱さが見られる。現在の自分の姿を見つめ、適切な目標を立て、それに向けて、実践できるよう具体的な体験を通して、努力することの大切さや向上しようとする心の必要なことに気付かせたい。それには、自分をよくしようとする強い気持ちがなくてはならない。やり遂げたコノの気持ちを想像することによって成し遂げた達成感を感じさせ、より高い目標に向かって努力しようとする態度を育てたい。

(3) ①教科書が不合格になった場面、②留学できなかった場面、③理学博士になった場面の3つから自分の考えたい場面を選択する。①の場面からは、勉強や仕事に対するコノの熱意や努力と社会の不公平な見方にもくじけない強い意志を学ぶことができる。②の場面では、二度の挫折によるコノの深い悲しみと、それを乗り越えるたくましさや学ぶことができる。③の場面からは、多くのことを乗り越えてやり遂げた充実感、さらに研究を続けていこうとする向上心を学んでいくことができる。同じ場面を選択した子ども同士の交流、全体での話し合いにより、コノのひたむきさに気付かせたい。終末では、コノの生き方から学んだことを自分の生活の中で生かせることを見つめさせたい。


3 板書例

日本で最初の女性博士  
保井コノ




コノの生き方から学びたい

- ・自分の好きなものを見つける。
- ・努力する。
- ・あきらめない。



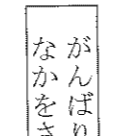
理学博士になる

- ・やっとなぐられた。
- ・やればできる。
- ・また、勉強を続けよう



留学できない

- ・やっばりだめだ。
- ・留学したい。
- ・くじけない。
- ・勉強がしたい。



教科書が不合格

- ・一生懸命がんばったのに。
- ・女性はだめなのか
- ・女性だからと認められないのは悲しい。
- ・女性だからと認めないのは悲しい。
- ・認められるようにがんばろう。

がんばり続けたコノの心のなかをさぐる

4 本時の学習

(1) ねらい

困難があってもくじけず、常に希望をもってやり抜き、自分の志を貫こうとする意欲を高める。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の働き	指導上の留意点や支援の観点
1 学期初めに立てた自分の目標を振り返る。	○自分の立てたためあてを振り返ってみましょう。 ・できないとあきらめていたなあ。 ・やろうという心をなくしていたなあ。	・事前の生活アンケートや日記などから把握しておく。
2 資料「日本で最初の女性博士」を読み、学習問題をつかむ。	<b>がんばり続けたコノの心の中を探ろう。</b>	・コノの願いに注目することにより、学習問題へと意識をつなげたい。
3 場面を選択して、コノの気持ちを考える。 (1) 自分の考えを書く。 (2) 同じ場面を選んだ人と話し合う。	●困難に出会いながらもがんばり続けたコノの気持ちを考えましょう。	・心に強く感じる言葉を手がかりにコノの気持ちを探るよう援助する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>①教科書が不合格</b>                      ・一生懸命頑張ったのに。                      ・女性はだめなのか。                      ・女性だからと認めないのは悲しい。                      ・認められるようにがんばろう。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <b>②留学できない</b>                      ・やっばりだめだ。                      ・なんで女性だとだめなんだ。                      ・もっともっと勉強したい。留学したい。                      ・あきらめないで、勉強を続けよう。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <b>③理学博士になる</b>                      ・やっとなぐられた。                      ・やればできる。女性であっても認められてよかった。                      ・これからも、もっともっと勉強を続けよう。                 </div>	・友達と自分の考えの違いに着目して交流できるように援助する。同じ場面を選んでいる者同士で交流し、考えを広げたり深めたりする。
(3) 全体で話し合う	○なぜここまわったのよ でしてコノは、がんばろうか。	・全体交流し、コノが困難にくじけないで、がんばったのはなぜか切り返しの発問をし、考えを深める。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     ・勉強したいという強い気持ちがあったんだ。                      ・女性だからと認められなくても決してあきらめなかった。                      ・コノを支える人がいたからだ。                 </div>	
4 コノの生き方から学んだことを自分の生活の中で考える。	・わたしは、ピアノが好きなので練習をもっとがんばってうまくなりたい。 ・さか上がりができるように、あきらめないでがんばろう。	・自分の目標の振り返りとつなぎ、自分をもっとよくするために大切な心を考えてまとめるよう助言する。

(3) 評価の観点

場面を選択をして、いろいろな困難に出会っても、くじけないで努力を続けたコノの気持ちを考えて書くことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

保井コノに関する資料や時代把握を助ける語句の解説等、資料が把握しやすくなるよう事前の準備に配慮したい。

主 題 名 あたたかい心で

1 資 料 名 おばあちゃん、いっしょに行こう

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、2-(2)「思いやり、親切」である。学習指導要領では、「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」と示されている。相手のことを思いやるには、相手の年齢や表情あるいは態度など様々な情報を自分なりに処理し、それを人にとって一番よい方法は何かを考えることが必要で、また、それをもつて実行し、尊敬と感謝の念をもって接していくことが大切となる。

中心価値	関連価値
2-(2)思いやり、親切	1-(3)善悪の判断、勇気 2-(4)尊敬・感謝

(2) 中学年の児童は、困っている友達や下級生の気持ちは、年寄りの人よりも多いため、年寄りの人への接し方について、思いやりのある態度で接し、相手の困りごとを解決できるようにしたい。

(3) 中心価値「思いやり、親切」を高めるために、おばあちゃんに会った場面をカードに書き、自分の価値意識を明確にする。カードをもとに仲間分けをしたりつながりやを考えたりして、グループで交流する。(板書用カードの利用)

3 板書例

お年よりの話を聞いて

- ・ やつぱり、体がいろいろとたいへんなんだ。
- ・ 少しのことでも喜んでもらえるんだ。
- ・ 相手の気持ちを考えながら行動することが大切なんだ。

これからの自分

○お年よりの話を聞いて、こんなふうにかかわりたい。

お礼を言われた場面

- ・ やつと着いた、つかれた。
- ・ もっと話しかけたらよかった。
- ・ 案内してよかった。
- ・ 本当にも困っていたんだ。
- ・ これからも困っている人に何かしよう。

二人が歩いている場面

- ・ 案内を引き受けなかったらよかった。
- ・ 二人きりだと心細い。
- ・ ロで教えたらよかった。
- ・ どうして返事をしてくれないの。
- ・ 何か話してくれたらいいのに。

おばあちゃんに出会った場面

- ・ 早く帰って遊びたい。
- ・ 困っているみたい。
- ・ うまく案内できないかな。
- ・ だれかほかの人に。
- ・ よろよろしてあぶないよ。

おばあちゃん、いっしょに行こう

お年よりのようす

- ・ 乳母車がたいへんそう
- ・ 階段がえらそう
- ・ 休みながら歩いている
- ・ 耳が聞こえない

さわやかな気持ちになった、ぼくの心の中を考えよう。

見ても手助けしたことはあまりないな。

たいへんだったけど、あんなに喜んでくれてうれしい。親切にすると自分も気持ちがいい。

4 本時の学習

- (1) ねらい  
相手の立場に立って、だれに対してもあたたかく、心のこもった接し方をしようとする態度を育てる。
- (2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点			
1 普段、接しているお年寄りや関わり合っている人の様子について発表しよう。	○身近にいる高齢者の様子や自分の接し方を思い出してみよう。 ・ 乳母車を押している大変そうだ。 ・ 休みながら歩いている。階段を上がるとえらそうだ。 ・ 目や耳が悪くなり、不便そうだ。 ・ 普段、お年寄りの方を見ても、進んで手助けしたことはあまりないなあ。	・ 普段、接している高齢者との関わりを思い起こすことで、自分の現在のありようを確認し、学習の見通しを持つ。			
2 資料「おばあちゃん、いっしょに行こう」を読んで話し合おう。	<p>さわやかな気持ちになった、ぼくの心の中を考えよう。</p> <p>●自分が考えてみたい場面を選んで、ぼくの心の中の気持ちを想像してみよう。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;"> <p>学校の帰り道でおばあさんに出会った場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早く帰って遊びたい。</li> <li>・ おばあさん、困っているみたいだ。</li> <li>・ うまく案内できるかな。</li> <li>・ 誰か他の人に聞いてくれたらいいのに。</li> <li>・ よろよろして危ないからついて行ってあげよう。</li> </ul> </td> <td style="width: 33%;"> <p>おばあさんと二人きりになって歩いている場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案内するのを受けなければよかった。</li> <li>・ 二人きりだと心細い。</li> <li>・ ロで教えたらよかった。</li> <li>・ どうして返事をしてくれないの。</li> <li>・ 何か話してくれたらいいのに。</li> </ul> </td> <td style="width: 33%;"> <p>郵便局についてお礼を言われた場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やつと着いた。つかれた。</li> <li>・ もっと話しかけたらよかったな。</li> <li>・ 案内してよかったな。</li> <li>・ 本当に困っていたんだ。</li> <li>・ 喜んでくれてうれしい。</li> <li>・ もっと困っている人に何かしてあげたい。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>学校の帰り道でおばあさんに出会った場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早く帰って遊びたい。</li> <li>・ おばあさん、困っているみたいだ。</li> <li>・ うまく案内できるかな。</li> <li>・ 誰か他の人に聞いてくれたらいいのに。</li> <li>・ よろよろして危ないからついて行ってあげよう。</li> </ul>	<p>おばあさんと二人きりになって歩いている場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案内するのを受けなければよかった。</li> <li>・ 二人きりだと心細い。</li> <li>・ ロで教えたらよかった。</li> <li>・ どうして返事をしてくれないの。</li> <li>・ 何か話してくれたらいいのに。</li> </ul>	<p>郵便局についてお礼を言われた場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やつと着いた。つかれた。</li> <li>・ もっと話しかけたらよかったな。</li> <li>・ 案内してよかったな。</li> <li>・ 本当に困っていたんだ。</li> <li>・ 喜んでくれてうれしい。</li> <li>・ もっと困っている人に何かしてあげたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が特に考えてみたい場面を3つの中から選択させる。</li> <li>・ ぼくの気持ちをカード(個人用付箋紙)に書き、自分の価値意識を明確にする。</li> <li>・ カードをもとに仲間分けをしたりつながりやを考えたりして、グループで交流する。(板書用カードの利用)</li> <li>・ 主人公の迷いや後悔、不安な気持ちなど、最終的に3つの場面をつないで考えさせ、さわやかな気持ちになったぼくの心の中を理解させる。</li> <li>・ 「ありがとう」と何のおおじぎをするおばあさんの姿や顔の表情にも着目して、おばあさんの心の中についても想像させたい。</li> </ul>
<p>学校の帰り道でおばあさんに出会った場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早く帰って遊びたい。</li> <li>・ おばあさん、困っているみたいだ。</li> <li>・ うまく案内できるかな。</li> <li>・ 誰か他の人に聞いてくれたらいいのに。</li> <li>・ よろよろして危ないからついて行ってあげよう。</li> </ul>	<p>おばあさんと二人きりになって歩いている場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案内するのを受けなければよかった。</li> <li>・ 二人きりだと心細い。</li> <li>・ ロで教えたらよかった。</li> <li>・ どうして返事をしてくれないの。</li> <li>・ 何か話してくれたらいいのに。</li> </ul>	<p>郵便局についてお礼を言われた場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やつと着いた。つかれた。</li> <li>・ もっと話しかけたらよかったな。</li> <li>・ 案内してよかったな。</li> <li>・ 本当に困っていたんだ。</li> <li>・ 喜んでくれてうれしい。</li> <li>・ もっと困っている人に何かしてあげたい。</li> </ul>			
(1) 心に残った場面を選び、ぼくの気持ちをカードに書く。					
(2) グループで交流する。					
(3) 全体で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郵便局に着くまでの間、いろんな不安や後悔があったけれど、最後におばあさんが喜んでくれたから、さわやかな気持ちになったんだなあ。</li> <li>・ 大変だったけど、おばあさんのやさしい心にふれることができたので、さわやかになったんだなあ。</li> <li>・ 勇気を出して、親切にすると自分も気持ちがいい。</li> </ul>				
3 高齢者の話を聞き、資料のおばあさんの心とつなげて考える。	○お年寄りの方が、どんなことを思っているのか、話(ビデオ、声のテープ)を聞いてみよう。 ・ お年寄りになると、体がいろいろと不自由になって少しのことでも大変なんだ。 ・ 私たちにとってはほんの少しのことでも、お年寄りの方はすごく喜んでくれるんだなあ。	・ 高齢者の生の声を聞くことで資料のおばあさんの喜びの中身を深く理解させる。(事前に打合せが必要)			
4 これからの自分とのお年寄りの方について考える。	○これから、高齢者にどのように接していこうと思うか。自分の身近な場面を考えてみよう。 ・ 私たちを育ててくれたおじいさんやおばあさんの話をじっくり聞いて、大切にしたいな。 ・ おせっかいにならないように、相手の気持ちを考え、親切にするように心がけたいな。 ・ 町でお年寄りを見かけたら、進んで声をかけたいな。	・ 実践につながるよう、具体的な人物を想定して考えさせる。			

(3) 評価の観点

主人公のぼくの気持ちをカードに書いて交流したり、高齢者の気持ちを考えたりすることにより、自分の高齢者に対する接し方を見直し、今後の実践意欲をもつことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

ボランティア活動を総合的な学習で取り入れている場合には、本資料を単元の中に位置付けて活用すると効果的である。また、日記や日常生活の会話から具体的に実践している児童を見つけ、朝の会等で発表させることを通して実践意欲を持続させたい。



主題名 小さな命を育てる

1 資料名 さかなの命

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、3-(1)生命尊重である。学習指導要領では、「生命の尊さを感  
じ取り、生命のあるものを大切に」と示されている。命あるすべてをかけがえないものとし  
て尊重し、大切に育てようとする内容項目である。  
3・4年生の段階になると、現実性を持って死を理解できるようになる。死んでしまった命が  
二度とよみがえることはないを知っている。そこで、自分が飼っている小さな生き物の死に接し  
たとき、なぜ死んでしまったのか、どうすれば死ななかつたのか、自分には何ができたのか、小  
さな生き物はどんな気持ちだったのか考えることで、生命に対する自分の責任を見つめなおすこ  
とができる。そうすることが、生命の尊さを心から実感することにつながる。もし、小  
さな命の死をそのままにしておくならば、自己を振り返ることができず、命の尊さに気づくこと  
ができない。また、小さな命に思いを寄せ生き物の気持ちを考え慈しむことができる子どもは、  
同様に人の命も大切にできると考える。


中心価値	関連価値
3-(1) 生命尊重	3-(2) 自然愛、動植物愛護 1-(1) 節度ある生活習慣、思慮反省

(2) 3年生になると、言葉の上で子どもたちは、「命は一つしかないで、大切にしなければならな  
い」と知っているが、実際の行動となると、自分の興味本位で生き物を捕まえて遊んでみたり、  
世話が續かなかつたりすることも少なくない。例えば、チョウを見つければ掴まえようとして  
ありを見つければ踏みつぶしたり水をかけたり、自分本位の行動をとる子もいる。そのような  
子どもたちが、生命あるすべてをかけがえないものとして尊重し、大切にしていこうとするに  
は、生き物の気持ちを考えようとする姿勢をもつことが必要である。  
(3) 本資料「さかなの命」は、主人公のぼくがため池で採ったたくさんの魚を育ててみたいと家族  
に何度も頼んで世話を始めるが、数日たつと関心が薄れ、不注意によりたくさんの魚が死なせてし  
まい、残った3匹をため池に放してやると言う内容である。  
興味を持った生き物を飼いたいという思いはだれでも共感できる。また、世話をだんだん  
しなくなり、生き物を死なせてしまった経験をもつ児童も多い。  
そこで導入部では、チョウの幼虫の世話の様子を思い出させ、自分と小さな生き物との関わり  
を見つめさせたい。  
あれほど何度も頼んで飼いはじめたにもかかわらず、自分が世話を忘れたため、停電で魚をたく  
さん死なせてしまい、ぼくは涙をこぼす。小さな命に対する自分の無責任な行動が、命を失わせ  
る結果となった罪悪感からの涙である。展開部では、自分の何がいけなかつたのか、どうすれば  
死ななかつたのか、魚たちはどんな気持ちだったのかを問ひかけ、死の意味をしっかりと考えさせ  
たい。それが、同じ過ちを繰り返さないことにつながっていく。また、魚をため池に放す場面  
のぼくの気持ちや魚の気持ちを考えることにより、自然の中に返すことが魚たちの幸せにつながつ  
ていることに気づかせたい。  
終末には、自分を振り返り、学んだ心からどう生き物と関わっていきたいかをワークシートに  
まとめる。

3 板書例

○自分を振り返ろう。

・自分の楽しみで生き物を飼っていたけど、生き物の気  
持ちはどうだったか。自然の中で暮らすことが幸せ。  
・生き物を飼うときは、自然の中で暮らしているよう  
に責任をもつて世話をしたい。



さかなの命

生き物を飼うときの大切な心について考えよう

・きちんと世話をするよ。  
・エアポンプも取り付けたから大丈夫。  
・大事に育てよう。  
・水槽が小さいのがちよつと心配。

・息がでなくて苦  
しい。仲間に死  
んでいく。助け  
てくれ。

・広い池に放して  
く。泳がなくて  
死んでしまった。  
・仲間も死んで  
しまった。助け  
てくれ。

4 本時の学習

(1) ねらい  
魚を放そうと決心したぼくの気持ちや魚の気持ちを考えることにより、命を育てることの難し  
さや重みを考え、生き物の命を大切にしようという心を育てる。

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 生き物の世話の様 子を話し合う。	○理科でチョウの幼虫を育てているね。自 分の世話の様子や、世話をして気付いた ことを発表しよう。 ・チョウの幼虫を育てているけど、えさ やりやそうじがちゃんとできていない。 ・チョウの幼虫がだんだん大きくなってい くのを見るのが楽しい。生き物の成長は すごい。	・自分の生き物の世話の様子 を思い出させ、課題意識を もてるようにする。
2 資料「さかなの命」 を読み、学習問題を つかむ。	● <b>生き物を飼うときの大切な心について 考えよう。</b> ○何度も飼おうと頼んだときのぼくの気持 ちを考えよう。 ・きちんとせわをするよ。エアポンプも 取り付けたから大丈夫。えさもやるよ。 水槽が小さいのがちよつと心配。	・立ち止まり読みをしながら、 魚をたくさん捕ったときの 気持ちや何度も頼んで飼お うとしたときの気持ちを話し 合う。 ・(2)(3)はワークシートに書 き、自分の考えをもてるよ うにする。
3 ぼくの気持ちの変 化や魚の気持ちを考 える。 (1) 何度も飼おうと頼 んだとき (2) なみだがこぼれて きたとき	○涙がこぼれてきたときのぼくと魚の気持 ちを考えよう。 ・ぼく・・・たくさんの魚を死なせてしまっ た。ぼくがちゃんと世話をしなかつたか らだ。早く気づいていればよかつたのに。 ぼくの責任だ。 ・魚・・・息ができなくて苦しい。仲間も次 々に死んでいく。あの広い池に帰りたい 助けてくれ。死にたくない。	・魚が死んでしまった原因を はつきりさせる。(水槽が小 さかつたこと、世話をする のを忘れていたこと)その ことにより生き物を飼うと きは様々なことに気をつ けなければいけないことに 気付かせる。そして魚の苦 しい気持ちを想像しやすく する。
(3) うんうんとうなず いて池を見ていたと き	● うんうんとうなずいて池を見ていたとき のぼくと魚の気持ちを考えよう。 ・ぼく・・・本当に長い間苦しい思いをさせ てごめん。早くこの広い池で元気になっ ておくれ。仲間を死なせて本当にごめん。 ・魚・・・広い池に放してくれてありがと う。ここなら思いっきり泳げる。自由に 生きていけるよ。	・このまま水を新しくして飼 い続けることもできたのに、 逃がすことに決めたのはど うしてかと問ひかけ、魚の 幸せを考えての行動である ことに気付かせたい。
3 自分の生活を振り 返る。	○ <b>自分の生活を振り返って考えよう。</b> ・このまま飼うよりも自然に返した方が 魚たちにとって幸せである。 ・今までは、飼ってみたいという自分の 楽しみしか考えていなかったけど、生 き物の気持ちを考えることが大事な んだな。 ・今まで生き物の気持ちを考えたことは あまりなかった。気持ちを考えて世話 をしたい。 ・自然の中で暮らしているように、気持 ちよく暮らせるようにしていきたい。	・自分の生き物との関わり について見つめ直し、どんな 生き物を飼うときにも、生 き物の気持ちを考えること が命の大切にすることに つながることを押さえる。

(3) 評価の観点  
ぼくの気持ちや魚の気持ちを考えることにより、生き物の気持ちを考えて命を大切にしてい  
こうとする心情が高まつたか。

5 他の教育活動などとの関連  
理科の「チョウを育てよう」の単元とつないで学習すると体験とつなぐことができ、自分のこと  
として生き物とのかかわりを考えられる。また、道徳の時間に学んだ心を理科の学習の中でも大  
にし、子どもたちに命を育てている意識と責任をもたせる。



主題名 志高く、希望と勇気をもって

1 資料名 夢を追い続けて —白井—

2 主題設定の理由

- (1) 中心に据えて指導したい内容は、「希望・勇気、不とう不屈」である。学習指導要領では、1—(2)「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」と示されている。それぞれに高い理想を追い求めるこの時期に、児童は、ある人物の生き方にあこがれたり、自分の夢や希望をふくらませたりする。同時に、自信がもてなかったり、夢や現実との違いを意識したりする時期でもある。このような時期であるからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、計画的に努力目標を立て、くじけずに希望と勇気をもって取り組み、その理想に向かって着実に前進していこうとする強い意志と実行力を育てる必要がある。その際、希望をもつことの大切さや挫折感を克服する人間の強さについて考えられるようにするとともに、勇気ある姿や真の勇気について指導していくことが重要である。そのことを通して、児童の中により積極的な自己像が形成される。

中心価値	関連価値		
1—(2)希望・勇気、不とう不屈	1—(5)創意・進取 1—(3)自由・責任 2—(3)信頼・友情	1—(6)個性伸長 4—(3)社会的役割・責任	1—(4)明朗・誠実

(2) 夢見る目標はもちながらも、なかなか自身を客観視できなかつたり、目標に向かう意欲をもち続けられなかつたり、素直に内なる自分を見つめるのが難しい発達段階に入ってきた。しかし、それだけに、自身を支える拠り所が必要であり、目指す目標をふくらませていきたいと考える。そのためにも、将来を見据えた夢や目標を常に意識し、それに向けての思いをより強くできるように、書いたり語ったり表現の場を積極的にもちたい。そして、ややもすると迷ったりくじけそうになったりする思いを後押し勇気づけるためにも、様々な分野で自身の夢を叶えてきた人物に触れさせていきたい。それが、子どもたちの今後の人としての価値観や生き方をつくるものとなるはずである。

(3) 特に、今回は、子どもたちが一番憧れるスポーツ界で活躍した人物であり、郷土出身の人物であるということで、より親しみと誇りをもって受け入れられるであろうと考える。

白井一幸が、選手時代・指導者時代を通して苦慮していたのが、いかに本番で力を発揮できるかであった。選手時代に会ったメンタルトレーニングが、指導する立場に立つてのメンタルコーチングにつながってきている。

夢や希望に向かっただけの勤勉努力やそこに至るまでの様々な新たな挑戦など盛りだくさんの価値に溢れているが、それらを貫いているのが、自分を見つめより大きな志を掲げながら自分の在り方を模索し創っていく姿勢である。心のもち方が体の動かし方にまでつながっていくという自身のコントロールの重要性である。この徹底して個を磨く切磋琢磨とともに、そのがんばりを見守りミスもフォローしてくれるチームのために全力を尽くす信頼関係も欠かせない。自信をもてないまま孤独な心でグラウンドには出たくない。自由な中、自発的に伸びていく選手たちと、任せられた信頼を拠り所に見守り応援できるチームの力を大切にしたい。白井一幸の野球への姿勢を描きながら、もっと大きな人間性を高める生き方を考えていきたい。

3 板書例

元気で向かっていきたい。 自分としっかり向き合っていく。 自分を信じることを大切にしていく。 互いを信じ合うことも力として信じてもらえる人間になりたい。	欠点を生かして 力つも味人白 にとたに違井 大せ自う一 き`信持人 なもをち一 う。にて見向選 し新方き手 てたを合欠 いな変い点 こ力え`と	プレッシャーを 自信に ける安れ待白 た言心るか井 い。業感力ら強 をのに生い かあ`ま えいコ練選 た思 習手 い。いチをし のに`と 応熱`と	「夢」と「元 気」を大切に ぶだこがの白 いかれいみ じかれば思ん よらばいな うも`い いがを越と選 ん信えき手 ばじたもど りて喜乗 た`びりな	夢を追い続けて —白井一幸— 自分の夢や希望を実現させるための工夫を見つけていこう。
	欠点を生かして 力つも味人白 にとたに違井 大せ自う一 き`信持人 なもをち一 う。にて見向選 し新方き手 てたを合欠 いな変い点 こ力え`と	プレッシャーを 自信に ける安れ待白 た言心るか井 い。業感力ら強 をのに生い かあ`ま えいコ練選 た思 習手 い。いチをし のに`と 応熱`と	「夢」と「元 気」を大切に ぶだこがの白 いかれいみ じかれば思ん よらばいな うも`い いがを越と選 ん信えき手 ばじたもど りて喜乗 た`びりな	夢を追い続けて —白井一幸— 自分の夢や希望を実現させるための工夫を見つけていこう。

4 本時の学習

(1) ねらい

白井の挑戦への思いを選手との関係において想像しながら、努力し続けることの大切さについて考えをふくらませる。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 これまで夢について語り合ってきたことを振り返る。	○これまで夢について学習してきたことを振り返ってみましょう。 ・いろいろな人から、一心に挑戦し続ける高い精神性を学んできたなあ。	・掲示されているこれまでの学習や自身の夢についての表現物から思い起こさせる。
2 資料を読み、学習問題を考える。	○この資料を読んで、どんな感想をもちましたか。 ・白井さんの夢をもって取り組み続けたところに、感動した。 ・選手との信頼関係も大切にして、チームをつくっていったことがすばらしい。	
3 白井さんから学んだ夢に向かって取り組み続けることの大切さを、場面を選んで、選手との関係において考える。	〇自分の夢や希望を実現させるための工夫を見つけていこう。 ●白井さんが夢をもって取り組み続け、実現できたひみつを、白井さんや選手の気持ちを想像しながら、考えていきましょう。	・3つの場面において、白井さんが大切にしてきたことを確認した上で、白井と選手両者の側の思いをワークシートに表すことを指示する。 ・子どもたち自身は、白井さんの手助けを受けながら頑張る選手の立場に立った思いで、夢の実現に向けた工夫を見出していけるよう支援する。
4 白井から学んだ自分の中の自分と向き合う思いを、自身の心の内に置き換えて考える。	〇白井さんから学んだ、自分の夢や希望を実現させるための工夫を見つけておきましょう。 ・夢に取り組み続けられることを喜んで、元気で向かっていきたい。 ・自分のことを知らなければならない。おそれず、自分としっかり向き合っていきたい。 ・自分を信じることを大切に、がんばりたい。 ・互いを信じ合うことも力としていきたい。 ・わたしも信じてもらえる人間になりたい。 ・くじけそうになっても、あきらめずにがんばりたい。	・白井さんから学んだ努力し続ける大切さを、自身の夢に置き換え、自分と向き合う思いとして、書き綴らせていく。

(3) 評価の観点

努力し続ける大切さを、自身の中に自分と向き合う思いとして、書き表すことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

- 総合的な学習におけるキャリア教育などで自身の夢をはぐくんでいく単元の中で、また国語の伝記学習とも関連させ、人としての生き方を追究していける。
- 郷土が生んだ逸材として取り上げ、郷土への愛着・誇りをはぐくんでいけるものとする。そして、地域のスポーツ界の活性化に尽力する動きや人物へとも目を向けさせたい。

主 題 名 今の自分にできること

1 資料名 未来にのびる夢ロード

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、「社会的役割の自覚と責任」である。学習指導要領によると、4-(3)「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に役割を果たす。」と示されている。人間は社会的な存在であり、家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。そうした集団に属する一人一人が、集団の活動に積極的に参加し、その中での自分の位置や役割を自覚して責任を果たすとともに、主体的に協力して全体の向上に役立とうとする態度をもつことが重要である。高学年の段階では、学校や地域の中でも、学級集団、クラブ・委員会・縦割り班等の異年齢集団、スポーツ少年団などの身近な集団において、自分の立場や全体の動きを自覚できる活動に主体的、積極的に参加できるようにしていくことが大切である。その中で自分の役割と責任を果たすとともに、互いのかかわりの大切さや、協力して目標を達成することのよさに気付くことができるよう指導する必要がある。

中心価値	関連価値
4-(3) 社会的役割の自覚と責任	4-(1) 公徳心、法・規則の尊重、権利義務 4-(4) 勤労・社会奉仕 4-(7) 郷土愛、愛国心

(2) 本校の教育目標は、「ふるさとが好き、自分が好き、みんなが大好きな子どもの育成」である。これに迫るために、学級では、児童らが自分たちで学級目標「責任・協力・奉仕」を作り、その達成に向けて日々取り組んでいる。高学年の仲間入りをした児童は、学校では、学級集団だけでなく、委員会活動やクラブ活動、縦割り班活動、登校班等で重要な役割を任されるが多くなってきた。活動が楽しかったり、うまく進んだりしているときには、それぞれの集団の中で、責任をもってやり遂げることのよさや協力することのすばらしさを実感している。しかし、活動自体が楽しくなかったり、困難さを感じたりすると、自主性を欠いたり、仕事を人に任せたりする児童もいる。このような実態に対し、自分がその集団の成員であるという自覚や集団への所属感をもたせた上で、活動への意欲を高めていくことが大切であると考えられる。

(3) 本資料は、地域の誇りである夢ロードにジュースの空き缶を捨ててしまう主人公のたけしが、二人の人物との出会いを通して、自分のすべきことは何なのかと自分自身を振り返る話である。たけしは、この二人から、それぞれ置かれている立場は違うけれどその人たちができることを自分で積極的にやっけていこうとする前向きな姿勢を学ぶ。

指導にあたっては、それぞれの場面ごとにたけしの心の中を探っていく。そして、自分のふるさと夢ロードをもう一度見回して「何ともいえない気持ちになってきた」たけしの心の中にどんな気持ちが渦巻いているかを想像させる。最後に、歌を自然と口ずさみながら一生懸命作業するたけしの心の中にもふれたい。

また、終末では、児童にとって身近な集団である学級、クラブ・委員会活動、縦割り班活動、登校班等自分の生活につなげて考えさせる。自分が所属している集団の中で自分にはどのような役割が任されているのか、責任を果たしているのかについても考えさせたい。

3 板書例

未来にのびる夢ロード

自分の役割を果たすときに、どんな心が大切なのだろうか。

二人と出会って

たけしは、何ともいえない気持ちになってきた。

一生懸命草をぬくたけし

たけしは、何ともいえない気持ちになってきた。

・このままでは、だめだ。  
・自分にも何かできるはず。  
・できることをやろう。  
・今までを取り返すぞ。

・班長だから一応。  
・きりがないよ。

・地域みんなが協力して作ってきた。  
・歳をとってもボランティアでがんばっているのがすごい。

自分の役割を果たすときに、積極的に進んでいく。  
・気持ちよくするのも大切。  
・みんなと協力してやる。  
心を大切にして取り組んでいきたい。

4 本時の学習

(1) ねらい 「たけし」の心の変化を探ることで、自分の役割を責任をもって果たしていくことが大切であることに気づき、自分も所属する集団の中で積極的に活動していこうとする意欲や態度を育てる。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 資料を読み、学習課題をつかむ。	○自分の役割を果たすときに、どんな心が大切なのだろうか。 ・仕事を終わらせるだけでよいのだろうか。 <b>自分の役割を果たすときに、どんな心が大切なのだろうか。</b>	・挿し絵を活用して登場人物や場面をしっかりと把握できるようにする。
2 たけしの心の中を探る。 (1) クリーン活動を始めたたけし (2) お姉さん、松木さんから学んだたけし	○クリーン活動を始めたたけしは、どんなことをつぶやいているのだろうか。 ・班長だから一応ちゃんとしなくては。 ・でも、いくらやってもきりがないよ。 ○お姉さんの話を聞いた後、たけしはどうして自分が恥ずかしくなったのだろうか。 ・地域みんなで協力して作ってきた夢ロードだったんだ。それなのに、自分は……。一生懸命作ってきた人に申し訳ない。 ・八十歳を超えている松木さんもがんばっている。十年以上もボランティアを続けているなんて、すごい。 ●「何ともいえない気持ちになってきた」たけしの心の中を想像しよう。 ・よく見ると、夢ロードがなくなってきているんじゃないのか。自分にも何かできることがあるはずだ。	・自分たちも嫌々している活動があるか尋ね、自分と重ねながらたけしの気持ちを考えられるようにする。 ・お姉さんと松木さん、それぞれの人物からどんなことを学んだか考えるよう助言する。 ・その後、全体で交流することで、それぞれの人物が自分の立場を考えて自分なりの責任を果たしていることに気付かせる。 ・たけしの複雑な心の中には、いろいろな気持ちが混じっていることがとらえられるよう、多様な意見を取り上げる。
(3) 何ともいえない気持ちのたけし	○たけしは、どんなことを思いながら草をぬいているだろうか。 ・自分のできることを精いっぱいやろう。 ○役割を果たす上で大切な心は何かな。	・あきらまのこにこした表情に着目するよう助言する。 ・役割を果たす上で大切な心を短い言葉でまとめて板書することで、事後に生かすようにする。
(4) 一生懸命草をぬくたけし	○たけしは、どんなことを思いながら草をぬいているだろうか。 ・自分のできることを精いっぱいやろう。 ○役割を果たす上で大切な心は何かな。	・心ノートを活用し、自分が所属する集団と役割を書くことで、個々に考えさせる。
3 役割を果たす上で大切な心について考える。	<b>積極的に進んで仕事をするのが大事だ。みんなと協力しながら責任を果たしたい。</b>	
4 自分の生活を振り返り、学んだことを書く。	○みんなには、どのような役割があるかな。 ・登校班や縦割り班の掃除で、リーダーを任されているよ。名前だけでなく、本当のリーダーにならなければいけないな。	

(3) 評価の観点 ・たけしの心の中を想像することができたか。  
・自分の所属する集団の中で、積極的に責任を果たそうとする意欲が高まったか。

5 他の教育活動などとの関連

- ・特別活動との関連を図る。学級における係や当番活動、クラブ活動や委員会活動、縦割り班での掃除や登校班の様子等で役割を果たしているか考えさせる。また、学校外の活動（地域での活動、スポーツ少年団、子ども会活動）にも目を向ける配慮がほしい。
- ・「心のノート」の「集団の中での役割を自覚して」のページを活用する。家族やいろいろな人にインタビューをして、それぞれの人が所属する集団の中で役割・責任を果たしていることに気付かせる。

主題名 みんなの笑顔が喜びに

1 資料名 心をつなぐヴァイオリン ー川井郁子ー

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、「勤労、社会奉仕」である。学習指導要領によると、4- (4) 「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする。」と示されている。私たちは、世の中や世界の出来事についてどれだけのことを知っているだろうか。色々な時に色々な場所でたくさんの人たちが悩みや苦しみを抱えて生活を送っている。なんとかしよう、なんとかしたいと思う気持ちが、人として生きていく上でとても大切なことではないだろうか。小さな力であっても一人一人が何かのために誰かのためにできることがあると考え、行動に移す心情を育てていくことが重要である。

人の幸福のために、社会をよりよくするために役立つことは、自分自身への喜びにもつながっていく。人との心を結ぶために、今の生活を見つめ直し、わたしたちができることを考え見つけていくことが大切だと考える。

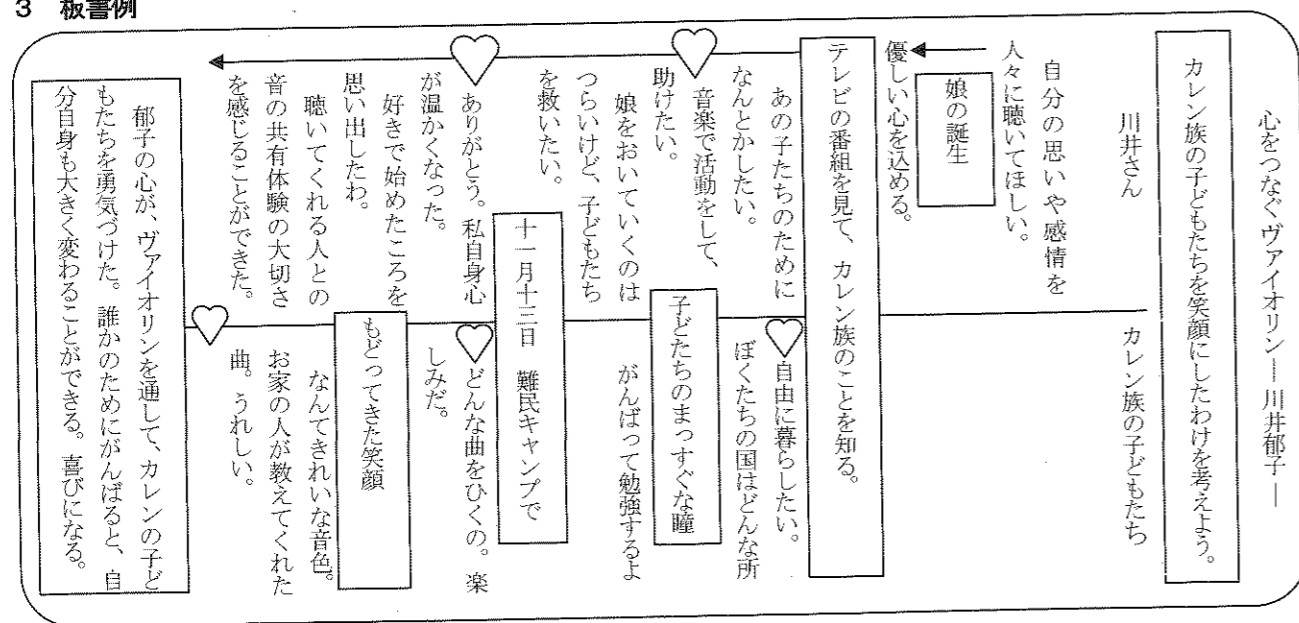
中心価値	関連価値
4- (4) 勤労, 社会奉仕	1- (6) 個性伸長    3- (1) 生命尊重    3- (3) 敬けん 4- (5) 家族愛    4- (8) 国際理解と親善

(2) 本校の教育目標は、「ひとみ輝き笑顔つなぐ子どもの育成」である。これに迫るために、学級では、子どもたちが自分たちで学級目標「自ら考え、進んで実行」を作り、その達成に向けて日々取り組んでいる。高学年のこの時期には、自分の仕事に意義を見だし、その仕事に主体的に取り組もうとする心情が高まる。委員会活動も充実し、学校の中心として、活動を行うこともできるようになり、みんなが笑顔で学校生活を送ることができるよう、あいさつボランティアや奉仕活動にも自分から進んで参加する子どもたちも増えてくる。しかし、まだまだ自分中心で物事を考え、自分さえよければ相手が困っているようが関係のない態度をする子どももいる。周りの出来事に対し無関心な子どももいる。働くことは自分の利益になるだけでなく、社会生活（学校生活）を支えるものであること理解し、社会への奉仕活動など公共のために役立つ活動に目を向け、取り組むことができるようにしていきたいと考える。

(3) 本資料では、主人公がヴァイオリンの演奏を通して、難民キャンプで暮らす人々との心の交流を交わし、自分自身も成長していく様子が描かれている。我が子の誕生をきっかけに、難民キャンプで暮らす人々のために自分のできることを考え、実行に移す主人公。しかし、反対に難民キャンプで暮らす子どもたちの瞳に励まされ、さらなる自分の発見にもつながる。共に夢に向かっての希望をいっしょに目指していくのである。

本時では、「子どもたちの瞳」「子どもたちの笑顔」をキーワードとして、主人公の気持ちの変化とつないで学習を進める。気持ちの変化がわかるように、「心のグラフ」での操作活動を行い、心の迷いを視覚的の確認し、変容の様子を自覚させる手立てとする。一方的に聴かせる音楽から、音の共有体験ができるようになった主人公、与えることだけが奉仕ではなく、活動を通して自分が学び自分が成長していったことに気付かせたい。

3 板書例



4 本時の学習

(1) ねらい

郁子の心や演奏の変化から、社会に奉仕することは喜びや自分自身の成長につながることを知り、人の役に立つことを進んでしようとする心情を高めることができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 資料を読み、学習問題をつかむ。	○はじめと変わったところを見つけていこう。 ・子どもたちのために演奏をするのはすごい。 ・演奏を聴くことで子どもたちが笑顔になったよ。	・川井さんの写真を提示しながら、香川県出身で、世界で活躍するヴァイオリニストであることを伝える。 ・川井さんやカレン族の子どもたちの気持ちの変化の分かるところに線を引くことで、時間の経過と共にお互いの気持ちの変化を感じ取らせる。
2 場面ごとに気持ちを考える。 (1) テレビを見た場面	○テレビを見たとき、はっと息をのんだのはどうしてですか。 ・カレン族の子どもたちには自由がないのだろうか。 ・私は恵まれた生活をおくっている。何かできないか。	・川井さんがテレビを見たときの気持ちを「心のグラフ」に表し考えることを通して、どうしていくべきか考え、決心し、行動に移す意志の強さを確認する。 ・お互いに関わっていくことを捉えるために、郁子がカレン族の子どもたちかどちらかの気持ちを考える。そして、お互いの気持ちの変化をより確実にするために、ペアで話す場を設定する。
(2) 活動をはじめて難民キャンプに行く決心をする場面	・自分にできることは、ヴァイオリンの演奏しかない。 ・日本での活動はどんどんと進んできたけど、やっぱり、直接行って子どもたちを励ましたい。みんなには、反対させるけどやっぱりあの瞳は忘れられない。	・川井さんがテレビを見たときの気持ちを「心のグラフ」に表し考えることを通して、どうしていくべきか考え、決心し、行動に移す意志の強さを確認する。 ・お互いに関わっていくことを捉えるために、郁子がカレン族の子どもたちかどちらかの気持ちを考える。そして、お互いの気持ちの変化をより確実にするために、ペアで話す場を設定する。
(3) カレン族の子どもたちに前で演奏をしている場面	●どうして郁子は、演奏をしているうちになんとも言えない感情が沸き上がったのでしょうか。また、演奏を聴いたカレン族の子どもたちはどんなことを思ったのでしょうか。 ＜郁子の気持ち＞ ・私に演奏が心に届くかどうか分からないけど、一生懸命演奏しよう。 ・子どもたちのきらきらした瞳を見ていると、自分の子ども時代を思い出して、胸がいっぱいになった。 ・心がつながることは、お互いの心を温かくしていくんだ。ありがとう。 ＜カレン族の子どもたちの気持ち＞ ・ヴァイオリンの音色を聴くと元気が出てきた。 ・心が温かくなるね。 ・お家の人に教わった歌だ。うれしい。 ・大人たちも国のことを思い出して泣いているよ。	・川井さんがテレビを見たときの気持ちを「心のグラフ」に表し考えることを通して、どうしていくべきか考え、決心し、行動に移す意志の強さを確認する。 ・お互いに関わっていくことを捉えるために、郁子がカレン族の子どもたちかどちらかの気持ちを考える。そして、お互いの気持ちの変化をより確実にするために、ペアで話す場を設定する。
3 笑顔になれたわけを確認する。	○笑顔になれたのはどうしてでしょう。 ・郁子の心が、ヴァイオリンを通して、カレン族の子どもたちの心に届き、笑顔にすることができた。 ・誰かのためにがんばると、自分自身も大きく変わることができる。喜びになる。	・社会奉仕は自分への変容にもつながることに気づかせる。 ・「心つなぐ」とはどんなことなのか「笑顔」とつないで考える。
4 世界の状況を知り、自分たちにできることを考える。	○自分たちにできることを考えよう。 ・世界には食糧不足や戦争、病気に苦しむ人たちがたくさんいる。自分たちにできることを考えて活動していこう。	・最後に、世界の今の現状を伝えることで、苦しんでいる子どもたちがたくさんいることにもふれ、今後の活動につなげる。

(3) 評価の観点

誰かのために行った行為は、喜びに変わり、自分の成長にもつながることに気づき、自分自身はできないか行動に移そうという気持ちが高まったか。

5 他の教育活動との関連

国語「マザー・テレサ」や社会「世界のニュースをすぐに伝える通信・報道」、総合的な学習と関連して学習を行うことができる。また、学校の中でのボランティア活動や児童会を中心とした募金活動等に関連も考えられる。

主題名 美しさを追究して

1 資料名 漆器の美しさを求めて ―玉楮象谷―

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、「真理、創意・進取」である。学習指導要領によると、1- (5) 「真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。」と示されている。子ども一人一人には、未知の可能性があり、大きな未来が広がっている。自己をより創造的に展開させるためには、自分自身がよりよくなりたいという気持ちをもつとともに、新しいものを受け入れようとする心も大切である。どうしてこうなったのか、どうすればもっとよいものが創造できるのか、そして、工夫していけるのか、考え主体的に取り組むことも必要である。しかし、やみくもに取り組むのではなく、科学的な探究心で、物事を合理的に見極め、真理を追究していくことが望ましい態度である。また、物事を多様な発想でとらえることも必要である。そして、自己が成長するためには、いろいろな困難を乗り越えなければならない。困難に立ち向かう強い心を持ち、自分の生活をよりよく工夫できるようにしていくことも大切である。

中心価値	関連価値
1- (5) 真理, 創意・進取	1- (2) 希望・勇気, 不とう不屈 1- (6) 個性伸長 4- (7) 郷土愛, 愛国心


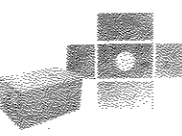
(2) 本校の教育目標は、「ひとみ輝き笑顔つなぐ子どもの育成」である。これに迫れるために、学級では、子どもたちが自分たちで学級目標「自ら考え、進んで実行」を作り、その達成に向けて日々取り組んでいる。高学年のこの時期は、一人一人が目標を立て、今の自分よりよくなりたいと思って、いろいろな活動を行っている。また、委員会活動など、組織的な仕事を友達と協力しながら円滑に進めることもできる。しかし、他人と比べるものさしを使い、自分に自信がもてなかったり、活動をより充実したものにするための工夫や、新しい企画を進んで考えたりすることが苦手な子どももいる。自分に自信を持ち、自分の考えをよりどころに真理を求めると共に、意欲的に自己を高めることがよとする積極性、自主性を伸ばし、確かな行動ができるようにしていきたいと考える。

(3) 本資料は、玉楮象谷が、常に真理を追究し、創造力を働かせ、日本を代表する伝統工芸作家になっていく様子が描かれている。一つのことを追究しやり遂げていくには、たくさんの時間を費やし、困難に立ち向かい、努力をすることが大切である。また、できたときの喜びと感動はその人を大きく成長させることにも気づくことのできる資料である。

本時では、自分が手に入れた東南アジアの漆器を小刀で削った場面に焦点を当てる。今まで順調に作品を作ってきた象谷の気持ち、外国の漆器の作り方が分からなく途方にくれる象谷の気持ち、とうとう小刀で作品を削った象谷の気持ちを比較させながら考えさせたい。そして、その人が立派であるという考え方で終わらないように、象谷の心の揺れを「心のグラフ」で表したり、自分たちの生活目標と関連したりしながら、学習を進め、希望をもってあきらめずに取り組んでいこうとする心情を高めたい。

3 板書例

漆器の美しさを求めて―玉楮象谷―

象谷が、すぐれた漆器を作ることができたわけを考えよう。

幼い頃から 根気強い 手先が器用 見る力  
二十歳 進んで勉強に励む

二十五歳 こんなすばらしい漆器は見たことがない。  
やる気を持って取り組む。

象谷が、すぐれた漆器を作ることができたわけを考えよう。

やっとなんか品だが、新しいものを作っていくには、削るしかない。  
今以上に、よいものを作るためには、どうなっているのか確かめることが大切だ。  
やはり、真実を見つけることは大切なことだ。

よいものを求めて様々な方法で調べたり確かめたりすることは、最後には自分の本当の力になることが分かった。

4 本時の学習

(1) ねらい

象谷の気持ちの変化を探ることで、自己をより創造的に発展させるためには、困難に立ち向かい、よりよいものを創り上げていく姿勢が大切であることに気づき、これからの自分の目標を主体的に取り組んでいこうとする態度を育てる。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 自分の生活目標について振り返る。	○どんな目標を立て、実行していますか。 ・タイムが縮まるように陸上の練習をがんばる目標を立てています。朝の練習に遅れがちになっています。 ・算数が好きなので、もっとできるようにしたいです。	・自分の目標を常に掲示しておき、振り返りの手立てとする。自分の目標が実行に移すことができているか、発表できるように助言する。 ・象谷の気持ちの変化が分かるところに線を引きながら、資料を読むように促す。
2 資料を読み、学習問題をつかむ。	○象谷の気持ちの変化を見つけよう。 ・あかりも付けなくて絵をかくなんて、象谷は、本当に絵を描くのが好きなんだね。 ・どきないと思ったら、ぼくだったら、途中で作品作りをやめるかもしれない。	・ただ絵を描くのが好きなわけではなく、象谷の幼少時代も努力をしていることに気づかせる。また、外国の漆器の出会うまでは、順調に自分の力がついてきたことにも気づかせる。 ・今まで順調にきていた象谷に挫折感を味わうような出来事があったことを、「心のグラフ」に象谷の心の揺れを表したり、自分ならどうするか考えたりすることで、つらいことは自分だけに起きることではないことに共感する手立てとする。
3 場面ごとに、象谷の気持ちを考える。 (1) 2つの場面の象谷の気持ちを考える。	○象谷はどんなことを思いながら外国の漆器を見つめているのだろう。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>&lt;外国の漆器に初めてであった場面&gt; ・これ以上のものを自分の手で造りたい。 ・今までのように努力すればできるはずだ。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>&lt;外国の漆器を眺め途方に暮れている場面&gt; ・作り方を調べたけれど、作り方が分からない。 ・もう、新しいものを作るのはやめよう。</p> </div> </div>	・今までの順調にきていた象谷に挫折感を味わうような出来事があったことを、「心のグラフ」に象谷の心の揺れを表したり、自分ならどうするか考えたりすることで、つらいことは自分だけに起きることではないことに共感する手立てとする。 ・殿様が持つような外国の漆器は高価なものであり、世の中にはあまり出回っていないことに触れ、大変なことをしたことを印象づける。
(2) 小刀で漆器を削り、秘密を見つける場面の気持ちを考える。	●止めるのをふりきってまで漆器を削ったのはどうしてだろう。 ・大切な品だが、新しいものを作るには、削るしかない。みんな分かってくれるはずだ。 ・今以上に、よいものを作るためには、どうなっているのか確かめることが大切だ。やはり、真実を見つけることは大切なことだ。	・象谷の心のつぶやきに迫れるよう、創意工夫や真理を追究していく象谷のすばらしさを話し合う視点を明確にした話し合いを行う。
3 象谷がすばらしい作品を追究することができたわけを話し合う。	○すばらしい作品を作る上で大切な心は何ですか。 象谷は、物事の性質を考えたり、作り方や構造を納得するまで確かめたりして、よりよいものを作るために工夫をして取り組んだ。	・自分の生活を振り返り、目標を達成するためにどうすればよいのか象谷の取組の良さを取り入れられるよう助言する。
4 これからの目標への取り組み方を考える。	○これから、みなさんは、どのような気持ちで目標に取り組んでいきますか。 すぐに現状に甘え、教えてくれることを待つことが多くなっただけで、どうすればいいか確かめ、工夫しながら、目標が達成できるようにしていきたい。	

(3) 評価の観点

- ・ すばらしい作品を作り上げた、象谷の心のつぶやきを見つけ、友達と交流できたか。
- ・ 先人の業績・努力がすばらしい作品を作り上げたことを理解し、自分の生活をよりよくするために工夫して、よりよいものを追究していく良さに気付いたか。

5 他の教育活動などとの関連

6年国語「桃花片」、5年社会科「わたしたちの生活と工業生産」の地域と結ぶさまざまな工業<香川県の伝統工芸>と関連して学習ができる。また、総合的な学習の時間やキャリア教育との関連も考えられる。



# 主 題 名 友だちを信じて自分の思いを伝える

## 1 資 料 名 友だち

### 2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、「信頼・友情、男女の協力」である。学習指導要領によると、2-(3)「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」と示されている。高学年になると、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との絆を深めていくようになる。しかし、社会の流行にも敏感になり、趣味が同じ、気が合う等の理由でグループ化し、閉鎖的な仲間集団を作る傾向が生まれてくる段階でもある。そのため、グループから外れ疎外感を感じたり、友達との関係で悩んだりすることが今まで以上にみられるようになると考えられる。このような段階においては、健全な友達関係を育てていくことが一層重要である。友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合い、高め合うような、真の友情を育てていくことが強く求められている。

中心価値	関連価値
2-(3)信頼・友情、男女の協力	1-(4)正直・誠実、明朗 2-(2)思いやり、親切 4-(2)公正・公平、正義

(2) 本校のめざす児童像の一つに、「やさしい子」がある。協力・共生の態度を育むことをめざしている。これを受けて、学級では「協力」という学級目標を設定し、友達の立場になって考え、友達同士が協力し合って活動していこうと日々取り組んでいる。

児童は、運動会や集団宿泊学習等の活動を通して、友達同士が協力することのすばらしさを学んできた。そして、互いが信頼し合ってこそ活動が楽しく充実したものになるということも実感してきている。しかし、やはり高学年という発達段階から、グループができて仲間に入れなかったり、うまく自分の思いを伝え合うことができずに友達を誤解してしまったりという問題も起こってきている。学校生活の中で、友達関係が大きな比重を占めるため、友達とのトラブルが起こると、学校生活全てが楽しくなくなってしまうということも考えられる。

(3) 本資料は、ちょっとした行き違いから友達関係が壊れていく様子を描いている。明子とよし子の態度から疑心暗鬼になり疎外感を感じていた「わたし」は、道子のアドバイスもあり、思い切って自分の思いを打ち明け、友達関係を改善していくという内容である。児童の日常にありがちなことを題材にしているため、自分自身の体験と重ね合わせて考えやすい資料である。また、主人公「わたし」の心情に迫りながら、友達関係を解決していった方法を探ることで、自分自身を見つめ直すこともできるであろう。

指導にあたっては、導入で自分の生活を振り返り、友達関係でよかったことや悩んだ経験などを発表させる。そして、資料中の「わたし」の気持ちを自分とかかわらせながら考えていくようにする。その際、「わたし」の気持ちが最初と、中と、最後では大きく違っていることをハートカードや心情盤を活用して分かりやすく色で示すようにする。友達関係がこわれ、誰も信用できなくなったときの悲しくつらい気持ちにも共感できるようにする。また、終末では、教師の説話を取り入れる。教師の体験談を聞くことで、誰でも友達関係で悩むことがあること、それをうまく解決するために自分の思いを相手に伝えることが大切であることに気付けるようにする。

### 3 板書例

○二人に打ち明けるわたし

- ・道子がついていく
- ・相手に伝えないと分かってもらえない。

○掃除のとき

- ・私の悪口を言うなんて。
- ・本当に言ってるのだろうか。

友だち

本当の友情を築くためには、どんな心が必要だろうか。

本当の友情を築くために

- ・友達を誤解しない
- ・相手を許す心も大切
- ・自分の思いを伝えることが大切です。

○二人に打ち明けるわたし

- ・道子がついていく
- ・相手に伝えないと分かってもらえない。

○掃除のとき

- ・私の悪口を言うなんて。
- ・本当に言ってるのだろうか。

## 4 本時の学習

(1) ねらい ちょっとした思い違いや言動から友達関係が壊れることがあることを知り、本当の友情を築くために互いを信頼し自分の思いを伝えようとする態度を育てる。

### (2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 友達関係について話し合い、学習課題をつかむ。	○友達関係で、よかったことや悩んだことがありますか。 ・友達とけんかをしてしまったことがある。 ・友達に話すと誤解が解けて仲直りできた。 <b>本当の友情を築くためには、どんな心が必要だろう。</b>	・学級の友達関係について教師が把握しておき、意図的指名をする。 ・友達関係を修復できた事例から学習課題につなげる。
2 資料を読んで「わたし」の心の中を探る。	○「わたし」の気持ちがどう変化していったか考えよう。 ・途中ですごくつらかったと思うけれど、最後には楽しく明るい気持ちになった。 ○掃除をしているとき話をごまかしてしまった「わたし」は、どんな気持ちだろう。 ・陰で私の悪口を言うなんて許せない。 ・本当に悪口を言っているのだろうか。聞いてみようか。	・主人公の気持ちの変化をとらえやすくするために、ハートカードや心情盤を用いて色で示す。 ・自分とのかかわりで考えられるよう、自分の生活経験と重ね合わせるよう助言する。 ・誰も信用できなくなった悲しくつらい心情に共感できるようにする。
(1) 掃除のとき話をごまかしたとき	○学校から帰るとき声をかけられなかった「わたし」はどんな気持ちだろう。 ・さっき悪口を言っていると教えてくれたのにどうして仲良く話しているの。嘘なの。 ・もう、誰を信じていいのかわからない。	・主人公の気持ちの変化をとらえ、道子の存在の大切さに気付けるようにする。
(2) 学校から帰るとき	●「わたし」が、二人に悩みを話しているのは、どんな気持ちが生まれたのだろうか。 ・道子さんが一緒についてくれる。 ・自分の思っていることを相手に伝えないと分かってくれない。 ・道子さんは自分の気持ちを分かってくれた。二人もきっと分かってくれる。	・自分の思いを伝えようとする勇気のすばらしさ、相手の思いを受け止めた二人の寛容さについても共感できるようにする。
(3) 明子やよし子に打ち明けるとき	○本当の友情を築くには、どんな心が大切なのだろう。 <b>友達を誤解しないようにしたい。自分の思いを相手に伝えることが大切だ。</b>	・友情を育む上で大切な心を短い言葉でまとめて板書する。 ・教師が自分の体験談を話すことで、誰でも友達関係の悩みをもつことに気付けるようにする。今後の自分についても考えるよう助言する。
3 真の友情を築くために大切な心について考える。	○先生も子どものころ話し合って解決した体験をしたことがあります。 ・みんな友達関係で悩んだな。でも、それを自分で乗り越えていくことが大事だ。	
4 教師の話聞く。		

### (3) 評価の観点

友達同士互いに分かり合うことの大切さを理解し、友達関係を自分で解決していくために、自分の思いを伝えようとする気持ちが高まったか。

## 5 他の教育活動などとの関連

- ・ 運動会や集団宿泊学習等、友達同士が信頼し合って協力できた行事を思い起こさせ、成功体験を振り返る。
- ・ 帰りの会で、友達のよさを見つける場を設定する。



主 題 名 最上級生として

1 資料名 心に残るたから物

2 主題設定の理由

(1) 中心に据えて指導したい内容は、「社会的役割の自覚と責任」である。学習指導要領では、4-(3)「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。」と示されている。人間は社会的な存在であり、家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。それらにおける集団と個の関係は、集団の中で一人一人が尊重され生かされながら、主体的な参加と協力の下に集団全体が成り立ち、その向上が図られるものでなければならない。そのためには、集団に属する一人一人が、集団の活動に積極的に参加し、集団の意義に気付き、その中での自分の位置や役割を自覚して責任を果たすとともに、主体的に協力して全体の向上に役立とうとする態度をもつことが重要である。なかでも、集団のまとまりを意識し、集団への所属感を高めていくことができるようにすることが求められる。そのためにも、一緒に活動する楽しさや、集団の役に立つ喜びを感じ取らせながら、主体的な活動への意欲を高めることが大切である。

中心価値	関連価値	
4-(3)社会的役割の自覚と責任	1-(4)誠実・明朗 2-(4)寛容・謙虚	2-(2)思いやり・親切 2-(5)尊敬・感謝

(2) この時期になると、学校や地域の中でも、学級集団、児童会やクラブなどの異年齢集団、遊び仲間や各種少年団体などの身近な集団において、自分の立場や全体の動きを自覚できる活動に主体的、積極的に参加できるようにしていく必要がある。それらを通して自分の役割と責任を果たすとともに、成員相互のかかわりの大切さや、協力して目標を達成することのよさに気付くことができるよう指導することが大切である。

異学年集団での活動は、高学年の子どもたちにとっては、どちらかというとな人気な活動である。思ったより低学年は、我が儘だったり、作業も手間取ったりと、任された負担の大きさばかりを感じてしまったり、なかなかその交流のよさを見失いがちである。

それは、自身の思いだけに終始してしまったり、相手の思いを知らない、気付かないままになっていたり、真に思いを交換していない場合もあるなど、相手が存在する活動でありながら、その関係がおざなりになっていたりしないだろうか。確かに年齢も違うし、お世話をするものの、その関係性ともに創っていくものはずである。そこに、押しつけられているという義務感から、慕われている、頼りにされているというやりがいが出てくると、本当の自覚と責任になるものだと思う。互いに喜び合える関係性を築いていく上でも、互いの思いを尊重し合い、自身の役割を果たしていこうとする姿勢をはぐくんできていきたい。

(3) 本資料において自覚が促され、責任をはたそうとする意欲が生まれたのも、ひとりよがりの気持ちから相手の思いを知るところに始まることに注目したい。自身だけの思いに終始せず、相手の思いに寄り添うことの大切さを手紙に綴られた思いを読み取りことから学んでいきたい。その際、同年齢ではないだけに、より大きな思いやりと優しさをもって臨まなければならない高学年としての役割と責任の重さにも十分浸らせていきたい。そこに生まれるこれまでの体験を通しての温かさを今後のやりがい感として、心に刻ませたいと考える。

3 板書例

心に残る思い出

思い出はひとりです。相手の気持ちを知らず、互いに気持ちを伝えることが大事だ。下級生ばかり楽しんでいる。わたしの役割だ。下級生の思い出が、わたしの役割だ。下級生の思い出が、わたしの役割だ。下級生の思い出が、わたしの役割だ。

なわとびの練習

友子さんが感じた心に残るたから物を考えてみよう。

手伝ってほしい。わたしが手伝ってほしい。わたしが手伝ってほしい。わたしが手伝ってほしい。

そうじのとき

友子さんが感じた心に残るたから物を考えてみよう。

手伝ってほしい。わたしが手伝ってほしい。わたしが手伝ってほしい。わたしが手伝ってほしい。

最上級生として

友子さんが感じた心に残るたから物を考えてみよう。

いっしょにいい思い出を。もっと役に立ちたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

三年生のたまみちゃんの思いを想像しながら、いっしょに活動する集団の意味とそこでの友子さんの役割を考え、主体的に責任を果たそうとする意欲を高める。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点や支援の観点
1 高学年としての活動や姿勢を振り返る。	○高学年としての自分を、振り返ってみましょう。 ・大変だったり、面倒だったり、高学年ばかりに押しつけられて、楽しくない。	・異学年との交流を中心として想起させる。
2 資料を読み、学習問題を考える。	○資料を読んだ感想を話し合おう。 ・友子さんが、たまみちゃんの手紙で気付いて、いやなことでもいい思い出にできてよかった。わたしも気付いていないことがあるかもしれない。	
3 友子さんの気付きを、たまみちゃんの気持ちも想像しながら、考える。  (1) そうじのとき  (2) なわとびの練習	<p><b>友子さんが感じた心に残るたから物を考えてみよう。</b></p> <p>●友子さんが、たまみちゃんの手紙で気付いた、心に残るたから物について考えよう。</p> <p>○まず、そうじのときの友子さん気持ちを想像してみましょう。 ・手伝ってほしい。わたしばかりで、いやになる。いっしょに協力してよ。</p> <p>○次に、なわとびの練習での友子さんとたまみちゃんの気持ちを想像してみましょう。 ・友子さん: いっしょにがんばろう。わたしがついてるよ。たまみちゃんができて喜んでる顔を見たいな。 ・たまみちゃん: ありがとう。おねえちゃんがやさしく教えてくれて、本当にうれしかったよ。次は、わたしが喜ばせてあげたいな。</p>	<p>・2つの場面における友子の思いを想像して、そのときの気持ちの擦れ違いつかんでおく。そして、手紙に綴られたたまみちゃんの気持ちを重ね合わせることで、思い出の意味づけが変わってきたことを感じ取らせたい。</p>
4 自身のことも重ねながら、友子さんの心に残るたから物を書き表す。	○手紙も読み終えた今、友子さんはどんな気持ちでしょう。 ・いっしょにいい思い出をつくっていききたい。もっと役に立ちたいな。 ○友子さんになって、発表原稿を書いてみましょう。	<p>・相手を思う気持ちの中に役割と責任を見出していく。</p> <p>・思い出の二人にとっての意味と、そこで友子さんが果たすべき責任を考えながら、思い出の発表会に臨む友子さんの原稿を作っていく。そこに、自身の今後に向けた意欲も表れてくることも期待する。</p>

(3) 評価の観点

友子さんが感じた心に残るたから物が、自身のことも重ねながら、発表原稿として書き表すことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

- ・異学年交流はもちろんのこと、高学年としての自覚が問われるか活動とつなげながら、思い出の意味づけ直しと、今後への更なる意欲喚起を図りたい。
- ・手紙など言葉を介しての伝え合いの重要性を再認識していきたい。